埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

－令和４年度－

２０２３

千葉市教育委員会

例　言

1　千葉市では、市内の開発事業に先立ち、遺跡の内容や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施しています。本書は、その成果をまとめた市内遺跡埋蔵文化財調査報告書です。

2　市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中世に至る遺物散布地・貝塚・集落跡・古墳・塚・城館跡等を包括したものです。

3　発掘調査は千葉市教育委員会が主体となり、国庫補助金と市費により実施しました。報告書は市費により刊行しています。

4　事業主体及び調査組織は次のとおりです。

教育委員会事務局	教 育 長	磯野　和美
	教育次長	宮本　寿正
生涯学習部	部　　長	佐々木　敏春
文化財課	課　　長	佐久間　仁央
	課長補佐	横山　清次
特別史跡推進班	主　　査	森本　剛
	主任主事	石川　茜
	主任主事	服部　智至
文化財保護班	主　　査	中尾　麻子
	主任主事	佐藤　洋
	主　　事	千葉　南菜子
	主　　事	菊地　彩香
新博物館準備室	室　　長	蚊谷　友浩
	主任主事	武田　芳雅
	主任技師	永井　明男
埋蔵文化財調査センター		
	所　　長	西野　雅人
	主　　査	白根　義久
	主任主事	山下　亮介
	主任主事	松田　光太郎
	主任主事	木口　裕史
	会計年度任用職員	難波　美由紀
	会計年度任用職員	戸村　正己
	会計年度任用職員	岸本　高充
	会計年度任用職員	濱　秀輝

5　本書の執筆は、調査内容を調査担当者が、出土遺物については西野雅人、岸本高充が行い、木口裕史が編集しました。

6　出土遺物及び記録類等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管しています。

表1：発掘調査概要一覧

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
1	へたの台貝塚（だいかいづか）	確認・本調査	3千教埋セ第397号	2022年2月24日～2022年3月24日	27.7㎡（142.95㎡）	木口 裕史
		国庫補助	中央区仁戸名町275-7	個人住宅建築	個人	
2	へたの台貝塚（だいかいづか）	確認・本調査	4千教埋セ第56号	2022年6月8日～2022年6月14日	5.0㎡（133.44㎡）	木口 裕史
		市単費	中央区仁戸名町275-1、同6	住宅建築	株式会社千葉東建設	
3	へたの台貝塚（だいかいづか）	確認調査	4千教埋セ第57号	2022年6月16日～2022年6月29日	110.0㎡（1382.95㎡）	木口 裕史
		国庫補助	中央区仁戸名町275-7	宅地造成	株式会社千葉東建設	
4	立木南遺跡（たちきみなみいせき）	確認調査	2千教埋セ第501号	2021年10月25日～2021年12月10日	470㎡（3322㎡）	山下 亮介
		市単費	若葉区加曽利町 947-2、954-3、同6	宅地造成	個人	
5	居寒台遺跡（いさむだいいせき）	確認調査	3千教埋セ第186号	2021年8月31日～2021年9月15日	85.0㎡（869.0㎡）	山下 亮介
		市単費	花見川区浪花町907-4	宅地造成・住宅建築	株式会社コネクト	
6	高崎台遺跡（たかさきだいいせき）	確認調査	3千教埋セ第462号	2022年3月22日～2022年3月31日	115.0㎡（1209.12㎡）	松田 光太郎
		市単費	中央区星久喜町 315の一部	宅地造成	個人	
7	聖天遺跡（しょうてんいせき）	確認調査	4千教埋セ第42号	2022年5月31日～2022年6月7日	44.3㎡（499.82㎡）	木口 裕史
		市単費	若葉区多部田町 65-1の一部、同7	店舗建設	個人	
8	柳沢遺跡（やなざさわいせき）・玄藤遺跡（げんどういせき）	確認調査	4千教埋セ第52号	2022年6月28日～2022年7月28日	342㎡（3412㎡）	佐藤　洋
		市単費	若葉区小倉町 965-1、1024-2、1023-5	博物館および周辺施設整備	千葉市	
9	和唐地遺跡（わとうじいせき）・琵琶首台遺跡（びわくびだいいせき）	確認調査	4千教埋セ第26号	2022年7月14日～2022年8月15日	315.0㎡（8609.84㎡）	木口 裕史
		国庫補助	中央区星久喜町938、954～959、938～954地先赤道、956地先赤道	宅地造成	有限会社開成	
10	地蔵作遺跡（じぞうさくいせき）	確認調査	4千教埋セ第177号	2022年8月31日～2022年9月14日	164.0㎡（2043㎡）	木口 裕史
		国庫補助	花見川区長作町 959-1、1265-1、同3	店舗建設	個人	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

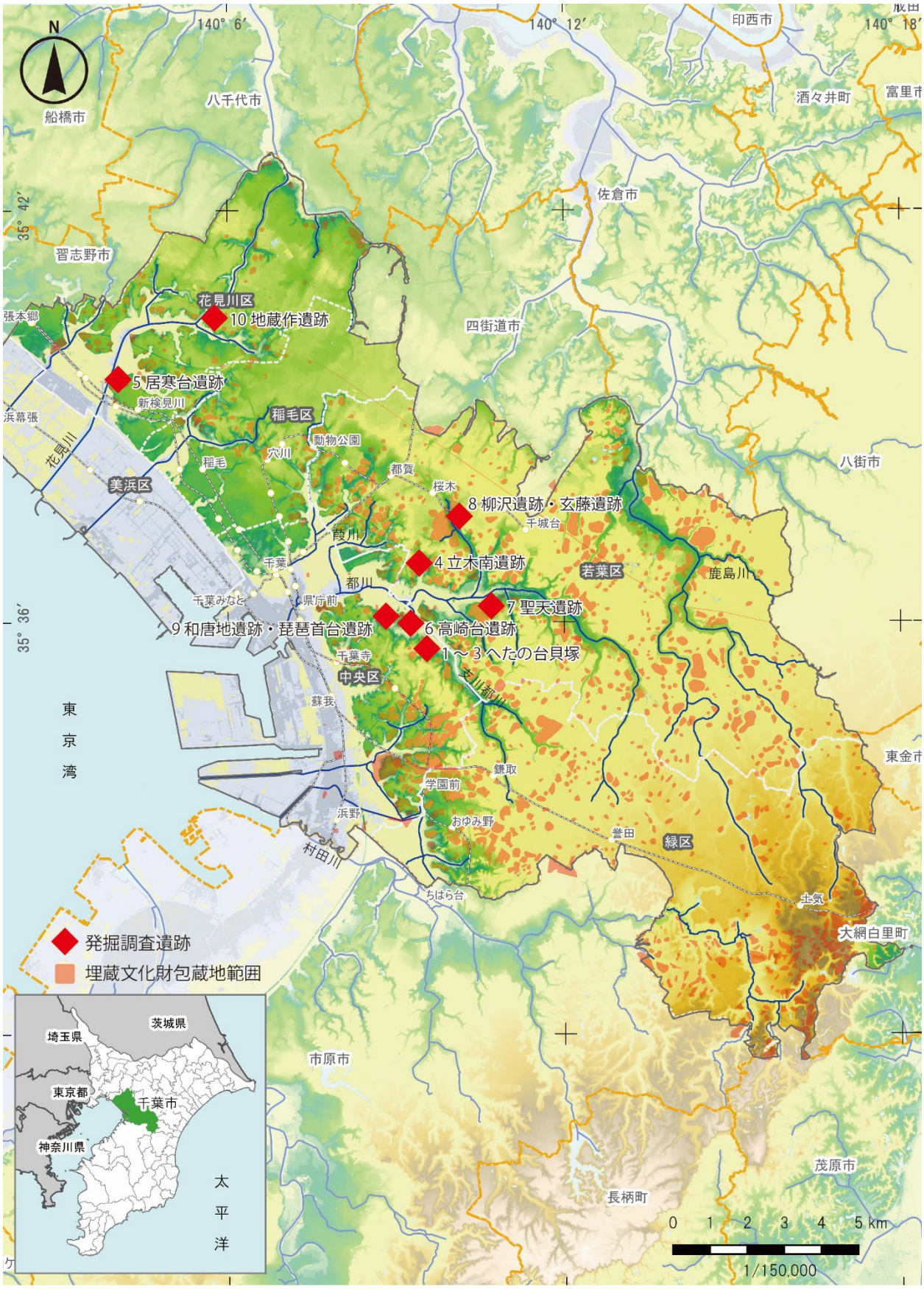


図1：発掘調査遺跡位置図

凡　　例

1　本書に掲載している地図で使用した背景図の出典は以下の通りです。

発掘調査遺跡位置図 1/150,000	国土地理院基盤地図情報 10m メッシュより生成
位置図　1/10,000	国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図
位置図　1/2,500	千葉市基本図（デジタルデータ）

2　地図・挿図の座標値は公共座標第IX系（世界測地系）を基本としメートル表記としましたが、調査遺跡位置図は巻末の報告書抄録との整合から地理学座標系（世界測地系）とし、経緯度で表示しました。

3　本書に掲載している挿図の縮尺は以下の通りです。

遺構配置図	1/500、1/1,000
グリッド配置図	1/200
セクション図	1/50
遺物実測図	2/1、1/1、1/2、1/3、1/4

4　発掘調査は重機掘削が可能なところまでは重機を使用し、トレンチの壁面や包含層の掘削、遺構の検出などは人力掘削で行いました。

5　土層説明に記号を示している場合は、農林水産省監修『新版 標準土色帖』を使用しています。

目　　次

例言

表 1:発掘調査概要一覧

図 1:発掘調査遺跡位置図

凡例

目次

1　へたの台貝塚①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2　へたの台貝塚②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

3　へたの台貝塚③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

4　立木南遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

5　居寒台遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

6　高崎台遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

7　聖天遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

8　柳沢遺跡・玄藤遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

9　和唐地遺跡・琵琶首台遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

１０　地蔵作遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

巻末　報告書抄録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

1　へたの台貝塚(だいかいづか)①

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
1	へたの台貝塚(だいかいづか)	確認・本調査	3千教埋セ第397号	2022年2月24日～2022年3月24日	27.7㎡（142.95㎡）	木口 裕史
		国庫補助	中央区仁戸名町275-7	個人住宅建築	個人	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

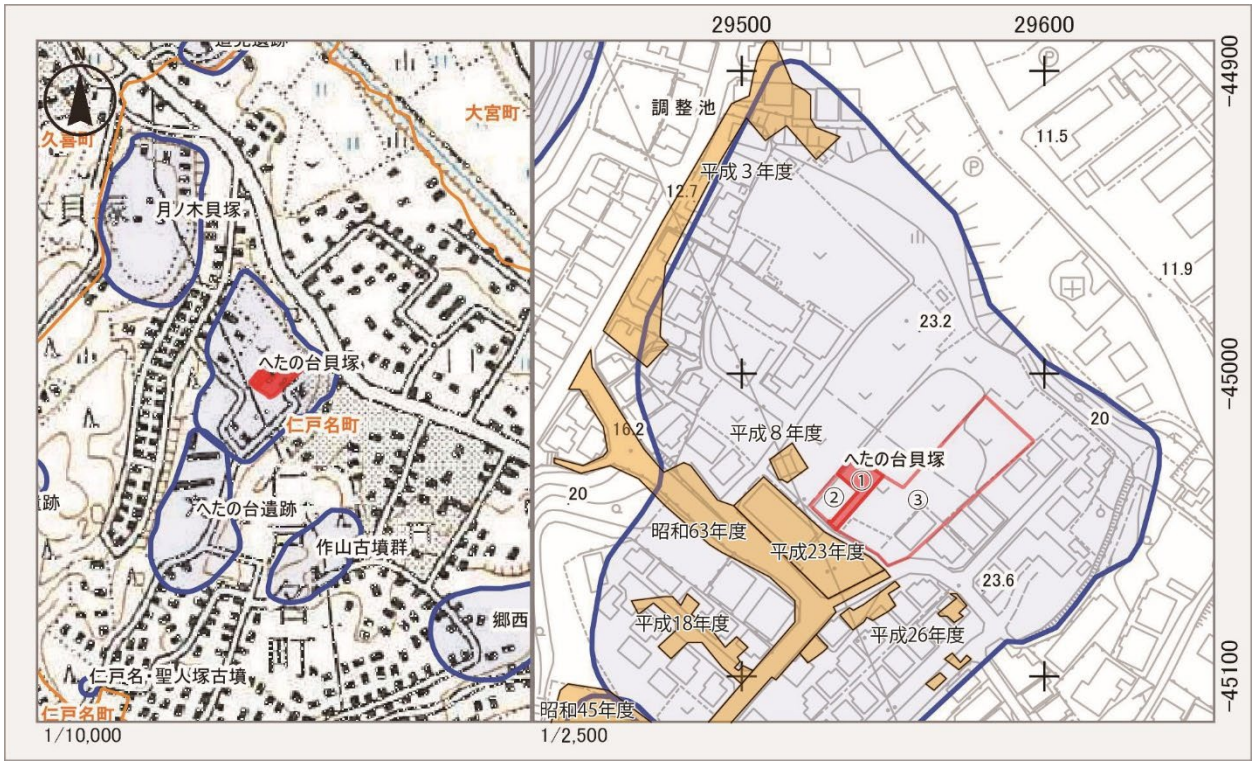


図 2:へたの台貝塚①位置図

（1）調査に至る経緯

令和 4 年 1 月 13 日付けで個人から住宅建築のための文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出された。試掘調査にて敷地全体に貝層を確認したため、その保護に向けて協議を開始した。その結果、家屋部分は保護層を確保して保存し、汚水管等を埋設する部分のみ本調査することで協議が整い、令和 4 年 1 月 29 日付けで埋蔵文化財発掘調査依頼が提出されたため、確認・本調査を実施した。

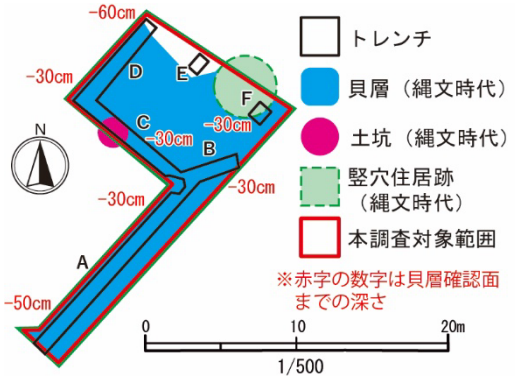


図 3:遺構配置図

（2）調査成果

旗竿地の竿部分と建物の周囲において汚水管等を埋設する箇所と、敷地北側奥と敷地西側隅に雨水浸透桝を設置する箇所に A～F のトレンチを設定した。敷地北側奥以外のトレンチでは 30 ㎝ほどの耕作土の下部に状態の良い貝層が全面的に検出された。

幅の狭いトレンチの全面的に貝層が検出されているため、貝層の上面を検出した後は、2ｍ 間隔で設定したグリッド毎に掘削した土や貝などを一旦すべて土のう袋に入れて取り上げた。この際、先にトレンチの右半分を機械的に 5 ㎝ごとに上から掘り下げ、セクションを確認した後に、左半分を層位別に掘削していった。土のうに取り上げた 1,928 袋の貝や土は 4 ㎜の目のふるいを用いてすべて

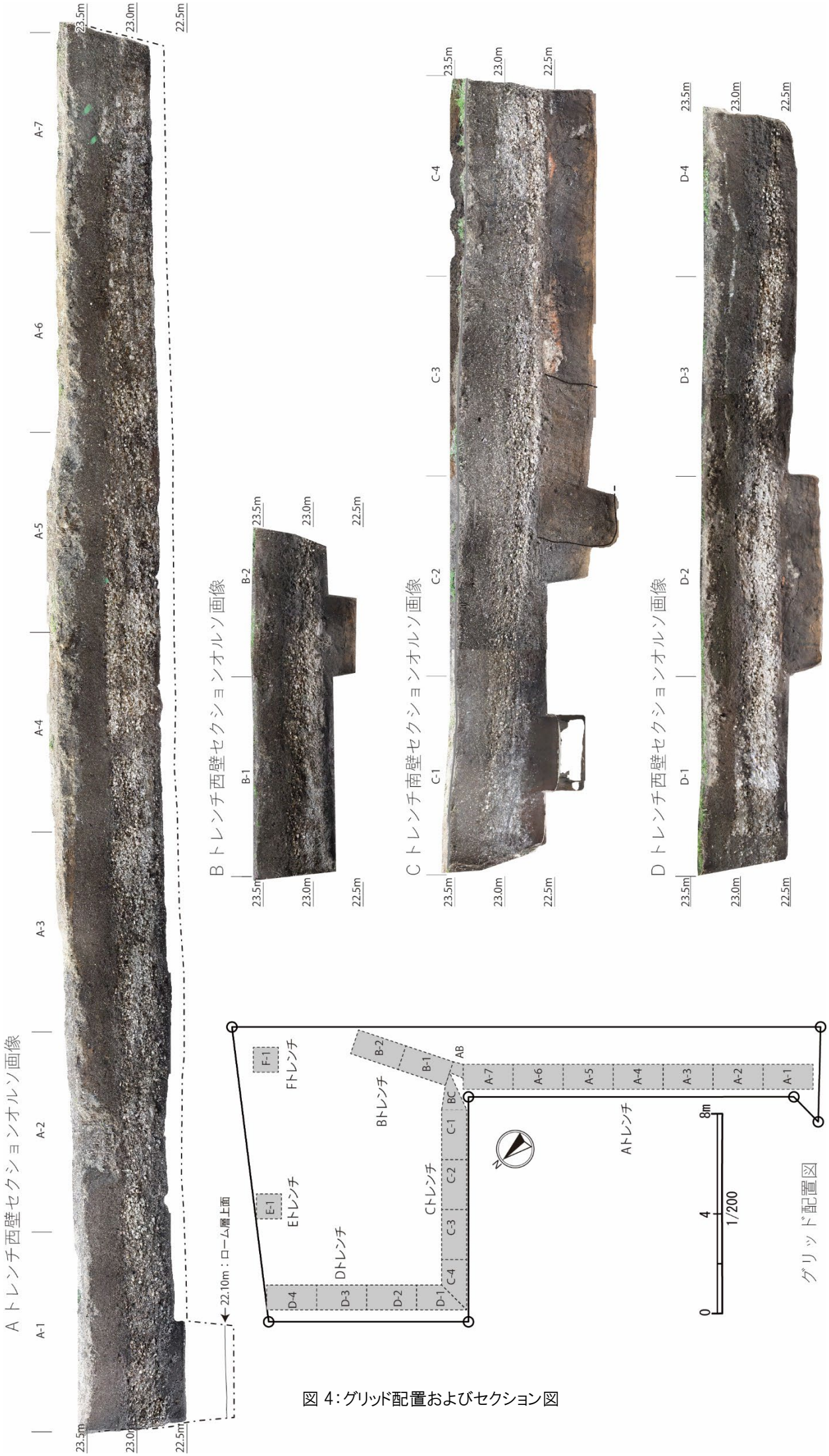


図 4：グリッド配置およびセクション図

ふるい、土器、石器、貝製品などの遺物だけでなく、獣骨や魚骨なども回収した。

9 か所で 30×30 ㎝の柱状に貝層サンプルを採取しており、貝層の詳細な分析を予定している。

基本層序は概ね、表土（耕作土）、混貝土層、二枚貝主体貝層、イボキサゴ純貝層、混貝土層、黒色土、ローム層となる。この間に破砕イボキサゴ層、灰集中エリア、焼土などが入り込む。貝層の厚さは平均して 30 ㎝ほどで、厚いところでも 50 ㎝を超えない程度であった。

貝層の下部で検出された遺構は、C トレンチで垂直な掘り込みと平坦な底部をもつ土坑が 1 基、F トレンチで小穴 1 基のみであった。F トレンチの小穴はその上部の貝層がレンズ状に堆積していること、深さ 70 ㎝と非常に深くしっかりと掘り込まれていることなどから、竪穴住居跡に伴う柱穴と推測される。

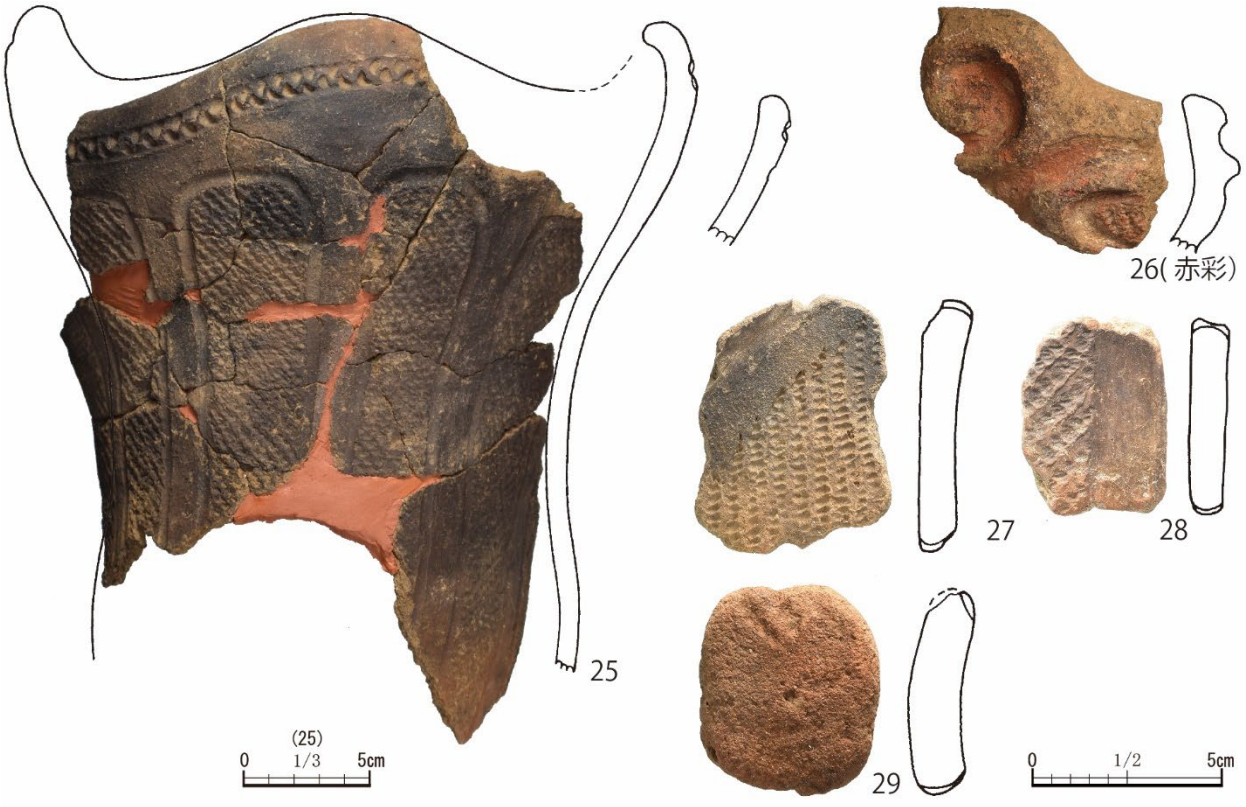
土器や石器などの人工遺物の出土量は近隣の貝塚と比して少ない。土器は加曽利 EⅡ式を主体に曽利系や連弧文系などが混じるが、時期幅はそれほど感じられないため、遺跡の存続期間は非常に短かったのではないかと想定される。谷を挟んで北西にある同時期の月ノ木貝塚との関係性を語る上で非常に重要な遺跡である。

（3）出土遺物

縄文土器 2,291 点、土師器 18 点が出土している。縄文土器のうち型式が判別できたもののほとんどは加曽利 EⅡ式で 1,142 点（曽利系の 75 点、連弧文系の 46 点を含む）となっている。

石器は磨製石斧 1 点、打製石斧 2 点、チャートの石鏃 3 点、磨石類 9 点、石皿・台石 3 点。獣骨はイノシシの下顎骨や椎骨をはじめ小片が数十点、魚骨は検出されているが小さな骨が数十点程度といずれも非常に少ない。一方、貝刃や貝ヘラなどの貝製品の出土が多く、貝刃は 59 点、貝ヘラは 61 点確認されている。貝刃の素材はほぼハマグリで、カガミガイが 1 点混じる。貝ヘラの素材はアリソガイ、ハマグリ、フジナミガイがみられた。

5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
(23)
0 1/3 5cm
0 1/2 5cm



No.	時代	種別１	種別２	種別３	出土地点	備考
1	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠ	A-1,044	キャリパー系。隆帯＋沈線区画。頸部無文。胴部沈線意匠文。RL
2	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠ	A-2中	波状口縁鉢。口唇上沈線。全面赤彩
3	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠ～Ⅱ	A-3下	無文口縁下端沈線区画。撚糸文L
4	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠ～Ⅱ	A-4Ⅴ層,198	キャリパー系。背割隆帯＋沈線区画。RL
5	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠ～Ⅱ	A-4,134	無文頸部下端沈線＋交互刺突区画。RL
6	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	A-5中	連弧文系。頸部。RL
7	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	A-5下	曽利系。沈線２本組→隆帯貼付け
8	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	A-5上	曽利系。沈線一本引。灰付着
9	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ？	A-6中	低い隆帯・沈線意匠文。LR。大木系？
10	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠ	A-7Ⅴ層,205	キャリパー系。背割隆帯区画・突起。LR
11	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠorⅡ	B-1上	曽利系の影響？隆帯区画上刺突、沈線区画内１本引き細沈線
12	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	A-6下	連弧文系の影響。撚糸文L
13	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	B-２中	連弧文系。沈線＋交互刺突区画
14	縄文	土器	加曽利E	大木８b？	C-1上	ＥⅡ並行。胴部に隆帯意匠文。表面赤く発色
15	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	B-2,040	曽利系。２本引沈線口縁端まで→隆帯貼付け。内面弱いナデ
16	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	C-2上	キャリパー系。隆帯＋沈線区画。刺突充填
17	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	C-2下	連弧文系？沈線間に刺突
18	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠorⅡ	C-2下	連弧文系？沈線間に刺突
19	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	C-4中ニ	曽利系。沈線→隆帯貼付け。交互刺突
20	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠ？	C-2下	角頭状無文口縁。RL→ナデ
21	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅢ古？	C-3,146	ＥⅢ横位連繋弧線文またはＥⅡ連弧文系統
22	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠ	F,116	キャリパー系。背割隆帯区画・突起
23	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	D-2,013	条線鉢。沈線区画。集合沈線
24	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	F,101	キャリパー系。高い隆帯区画。RL太
25	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ新	D-4,184	連弧文～横位連繋弧線文。沈線＋交互刺突。LRL
26	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	F下	キャリパー系。隆帯＋沈線区画。外面全体赤彩
27	縄文	土製品	土器片錘	加曽利ＥⅡ？	A-2中	胴部。切り込み両端。RL
28	縄文	土製品	土器片錘	加曽利ＥⅡ	D-4下	胴部。切り込み両端。RL
29	縄文	土製品	土器片錘	加曽利Ｅ？	C-4下コ	切り込み両端。全面摩滅顕著

（4）今後の取り扱い

今回調査した部分以外は現地にて現状保存することができた。全体的に表土が 30 ㎝ほど堆積し、保護層となっているが、今後新たに土木工事を行う際は細心の注意が必要となる。

1:Aトレンチ 完掘状況

2:Bトレンチ 完掘状況

3:Dトレンチ 完掘状況

4:Cトレンチ 完掘状況

5:Cトレンチ 遺構検出状況

6:Eトレンチ 完掘状況

7:Fトレンチ 完掘状況

2　へたの台貝塚②

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
2	へたの台貝塚	確認・本調査	4千教埋セ第56号	2022年6月8日～2022年6月14日	5.0㎡（133.44㎡）	木口 裕史
		市単費	中央区仁戸名町275-1、同6	住宅建築	株式会社千葉東建設	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

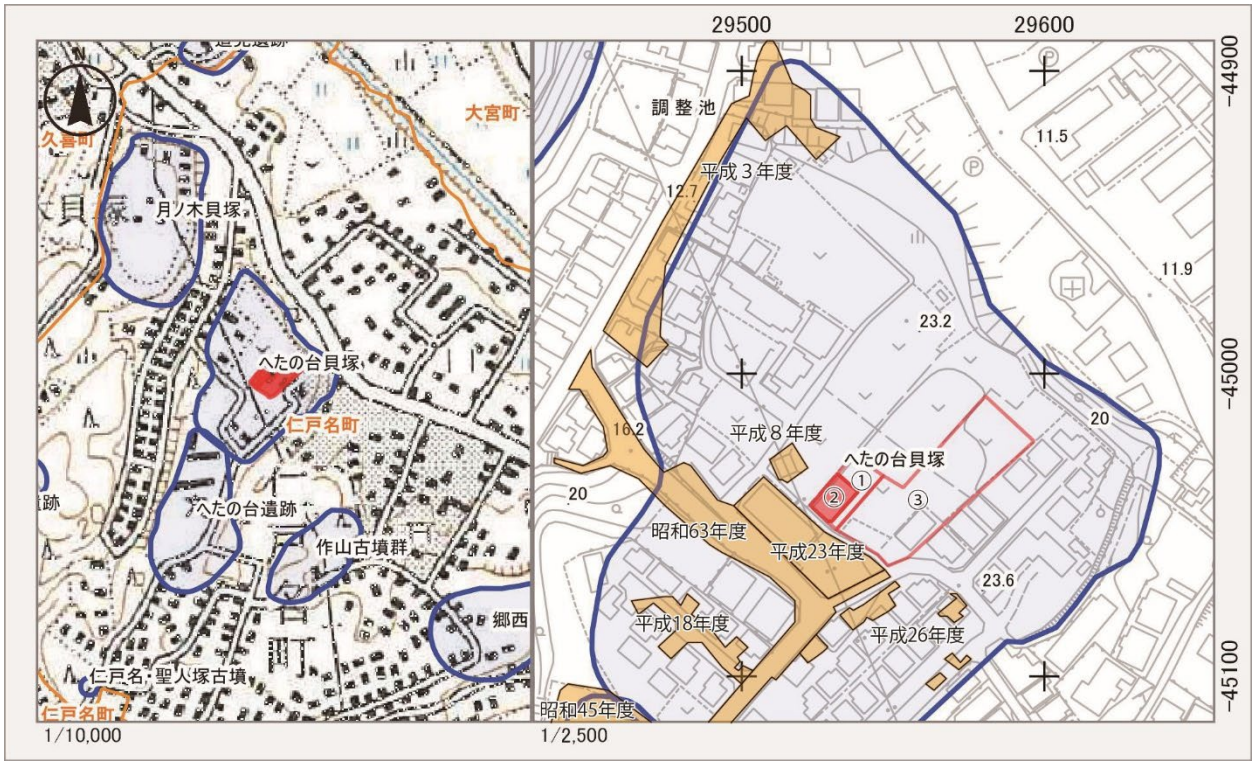


図 5:へたの台貝塚②位置図

（1）調査に至る経緯

令和 4 年 4 月 22 日付けで株式会社千葉東建設より住宅建築にかかる文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出された。事業地は令和 3 年度に確認・本調査を行った範囲の西隣であり、全体的に貝層が分布していることが明らかなため、その保護に向けて協議を重ねた結果、家屋部分と庭部分に関しては保護層を確保し、インフラ等の管を埋設する部分（5 ㎡）のみ調査することで協議が整った。これを受けて令和 4 年 5 月 20 日付けの埋蔵文化財発掘調査依頼が提出されたため、確認・本調査を実施した。

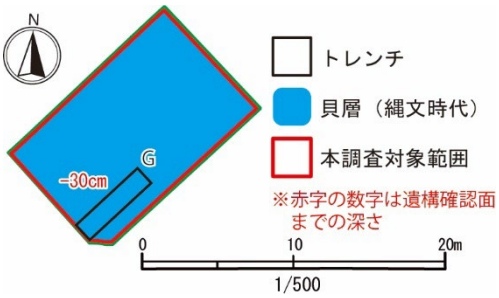


図 6:遺構配置図

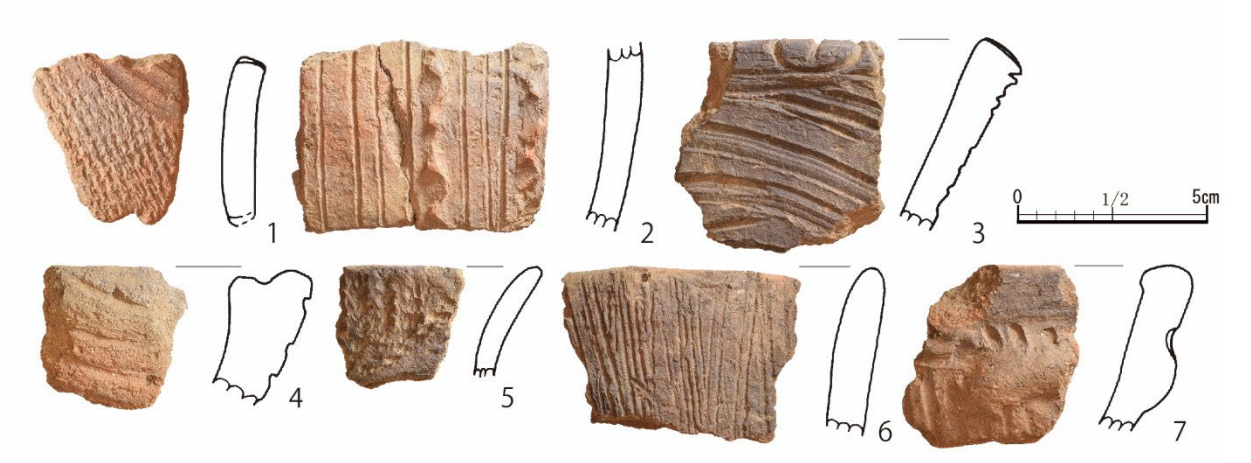
（2）調査成果

接道から家屋の基礎に接続する 5×1m のトレンチを 2m ごとに区切り、接道側から G-1、G-2、G-3 というグリッドを設定した。G-3 は汚水管の入る深度が 30 ㎝未満ということで貝層上面までの確認に留めた。

G-1、G-2 グリッドでは良好な堆積の貝層が確認された。基本的な層序は表土（旧耕作土）、1 層：混貝土層、2 層：二枚貝主体層、3 層：イボキサゴ層、4 層：混貝土層、5 層：黒色土層、ローム層となっている。

（3）出土遺物

加曽利ＥⅡ式を主体に縄文土器 146 点、土師器 8 点、陶器 1 点、土器片錘、磨石類、貝刃、貝ヘラなどが出土している。



No.	時代	種別１	種別２	種別３	出土地点	備考
1	縄文	土製品	土器片錘	加曽利ＥⅡ	G-1　1層	胴部。切り込み両端。連弧文系
2	縄文	土器	加曽利Ｅ	加曽利ＥⅡ	G-1　2層	曽利系。沈線→隆帯
3	縄文	土器	加曽利Ｅ	加曽利ＥⅡ	G-1　2層	曽利系。粗い２本引き沈線
4	縄文	土器	加曽利Ｅ	加曽利ＥⅡ	G-1　3層	曽利系。２本引き沈線
5	縄文	土器	加曽利Ｅ	加曽利ＥⅡ	G-1　3層	連弧文系か。LRL
6	縄文	土器	加曽利Ｅ	加曽利Ｅ	G-1　4層	集合沈線
7	縄文	土器	阿玉台	阿玉台Ⅳ	G-1　5層	隆帯意匠文、沈線・交互刺突。雲母多

（4）今後の取り扱い

今回調査した部分以外は現地にて現状保存することができた。全体的に表土が 30 ㎝ほど堆積し、保護層となっているが、今後新たに土木工事を行う際は細心の注意が必要となる。

1：Ｇトレンチセクション西壁オルソ画像

2：G-1 グリッド掘削完了

3：Ｇトレンチ貝層上面検出状況

3　へたの台貝塚(だいかいづか)③

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
3	へたの台貝塚(だいかいづか)	確認調査	4千教埋セ第57号	2022年6月16日～ 2022年6月29日	101.0㎡ (1,382.95㎡)	木口 裕史
		国庫補助	中央区仁戸名町275-7	宅地造成	株式会社千葉東建設	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

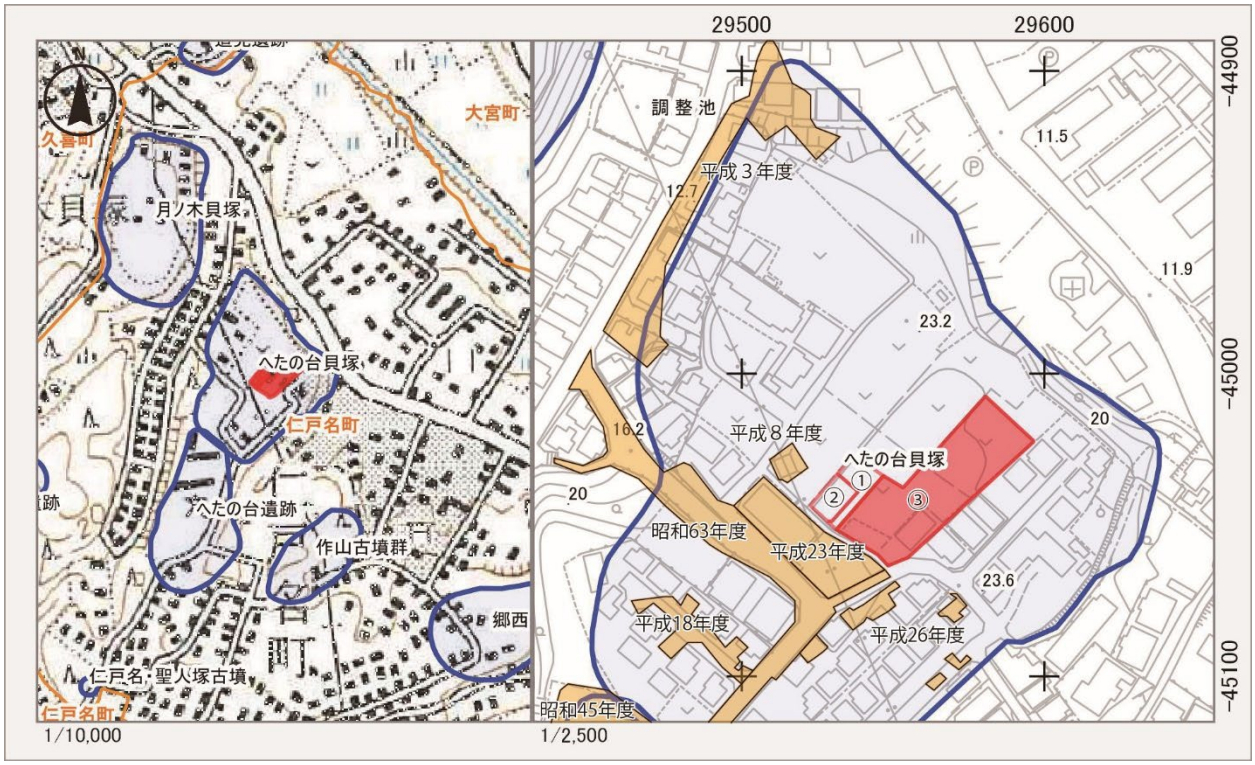


図 7:へたの台貝塚③位置図

（1）調査に至る経緯

令和 4 年 4 月 26 日付けで株式会社千葉東建設より宅地造成のための文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出された。事業地は令和 3 年度に確認・本調査を行った土地の東隣であり、貝層などが分布していることが明らかなため、その広がりを確認することで協議が整い、令和 4 年 5 月 20 日付けで埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

（2）調査成果

3 × 2 mを基本に 7 か所のトレンチと道路が計画されている部分に幅 1 m、長さ 60mのロングトレンチ 1 本を設定し、101 ㎡を調査した。事業地の北側と南側に厚さ 20 ㎝ほどの貝層を検出し、へたの台貝塚が従来言われていた通り、馬蹄形貝塚であることが確認された。貝層で囲まれた中央部では縄文時代の土坑と古墳時代以降の竪穴住居跡を検出した。

トレンチ 1 では縄文時代の土坑 1 基と古墳時代以降の竪穴住居跡 2 軒が切り合って検出された。トレンチ 3 からは縄文土器の小片が数点と平坦な加工面をもつ三角柱の軽石製品（遺物 14）が出土している。トレンチ 4 の土坑からは加曽利ＥⅡ式の深鉢の大型破片がまとまって出土した。

トレンチ 7 では厚さ 20 ㎝の表土をめくるとハマグリとイボキサゴの純貝層がトレンチ全面に広がる。この貝層の上面では大きめの土器片を含む灰が集中する範囲が検出された。

ロングトレンチ中央で検出した竪穴住居跡内からは、灰が詰まった甕や坏、小型甕などがまとまって出土した。（遺物 20～23、写真 6 ）

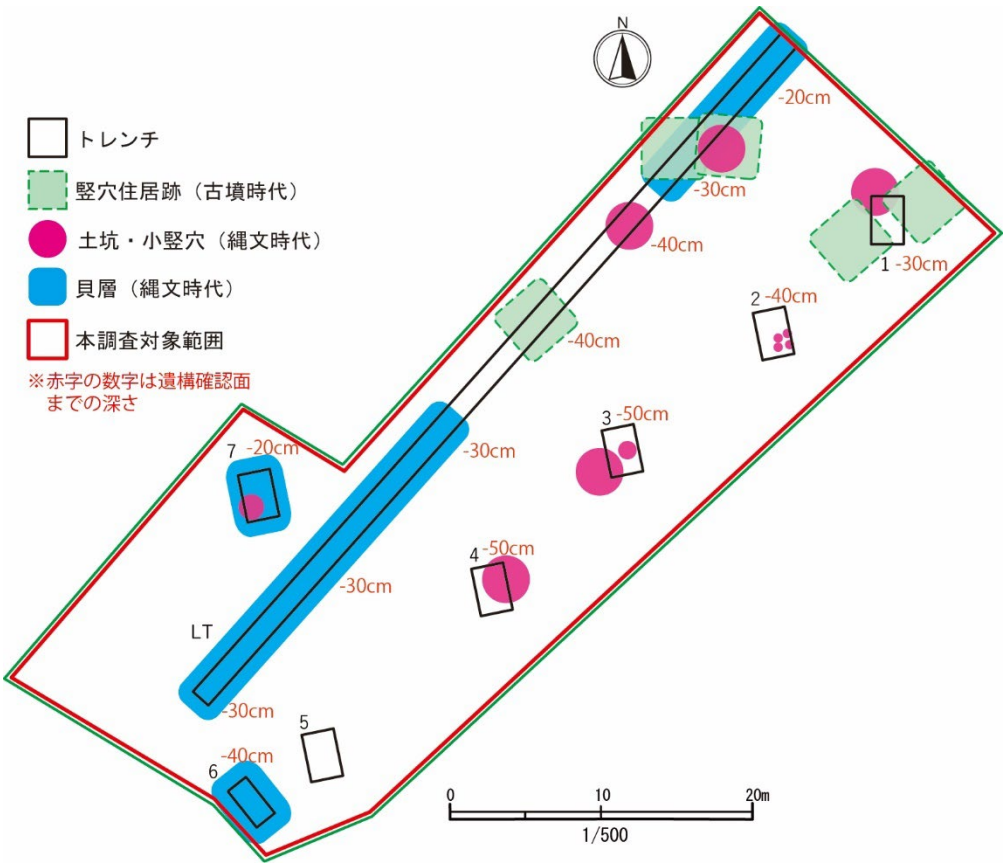


図 8:遺構配置図

（3）出土遺物

No.	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	1T	キャリパー系。隆帯＋なぞり。RL
2	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	2T	キャリパー系。隆帯＋沈線区画。RL
3	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅢ	2T	素文。RL
4	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	3T	キャリパー系。隆帯＋沈線区画。RL
5	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅢ	4T IK	横位連繋弧線文系か。半截竹管刺突。RL前段多条
6	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	4T	連弧文系。２本組集合沈線
7	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	7Tサブ	キャリパー系。隆帯＋沈線区画。LRL
8	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	7T	素文鉢。沈線区画～口唇上赤彩
9	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	7T	素文。RL
10	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	LT-3	キャリパー系。隆帯＋沈線区画。RL緩い巻
11	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅠ	LT-6サブ	分厚い口縁。沈線＋交互刺突区画、集合沈線。雲母やや多
12	縄文	土器	加曽利E	加曽利E	LT-7	連弧文系？RL多方向重畳
13	縄文	土器	加曽利E	加曽利ＥⅡ	LT-1	キャリパー胴部。RL
14	縄文	石器	軽石製品	－	3T	略三角柱。広い平滑な擦り面。研磨剤採取か
15	縄文	石器	打製石斧	分銅形	2T	側縁抉り～刃部一部。破損後被熱赤変
16	古代	土師器	坏	８C初頭以前	1T IK1	非ロクロ坏　外面：細かいヘラケズリ。内面：ミガキ
17	奈良	土師器	鉢？	８C前半	LT-18	外面：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：口縁ヨコナデ
18	奈良	土師器	甕	８C前半	LT-18	外面：口縁～頸部に接合痕、体部ヘラケズリ。内面：ナデ、頸部以下黒色物質塗布
19	奈良	土師器	甕	８C前半	LT-19	外面：体部粗いヘラケズリ。内面：ヨコナデ
20	平安	土師器	坏	９C後半	LT-25	ロクロ成形。やや厚手。外面：体部下半をヨコヘラケズリ→上半をヨコナデ。底部静止ヘラ切り
21	平安	土師器	小型甕	９C後半	LT-25	ロクロ成形。口縁～体部上端ヨコナデ、体部ヨコヘラケズリ。内面：やや強いロクロ目
22	平安	土師器	甕	８C後半～９C前半	LT-25	外面：口縁やや上につまみ出し→ヨコナデ。
23	古代	土師器	甕	－	LT-25	外面：口縁～頸部ヨコナデ、体部タテヘラケズリ。内面：頸部ヨコヘラケズリ、接合痕、体部押圧痕

縄文土器 411 点、土師器 56 点、須恵器 5 点、打製石斧、軽石、磨石類、支脚などが出土している。縄文土器のうち型式が判別できたもののほとんどは加曽利 E II 式で 179 点、その他に曽利系、連弧文系などがみられた。

土師器は古墳時代末から平安時代の甕や坏などが出土している。

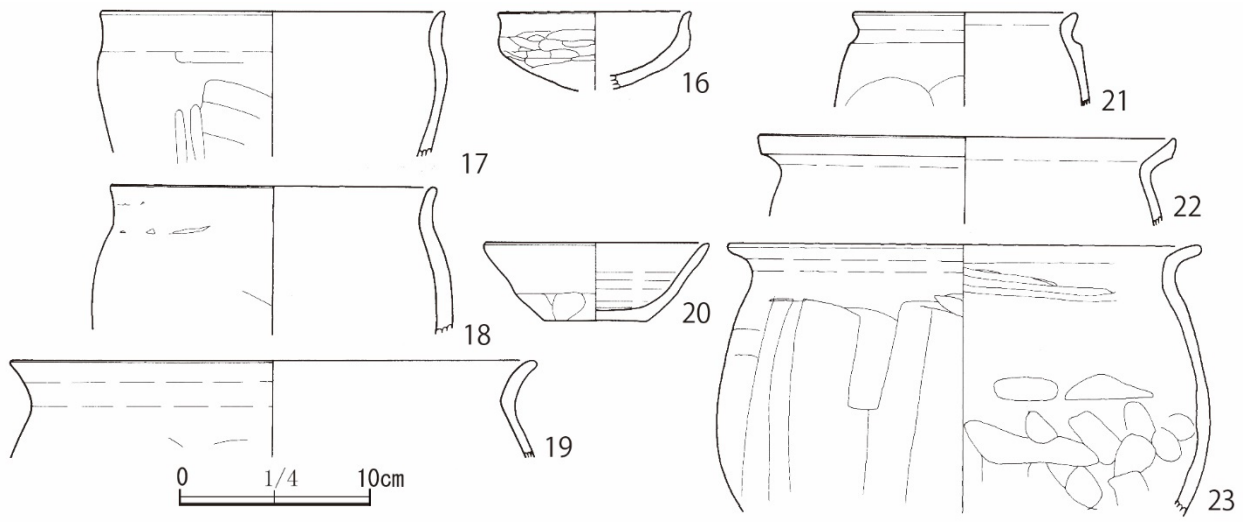


図 9:へたの台貝塚出土土師器

（4）今後の取り扱い

広範囲に貝層や古墳時代以降の竪穴住居跡などが確認されているため、事業地全体を本調査対象範囲とした。盛土等で遺跡の保護が可能かどうか、協議を継続している。

1:トレンチ1　遺構検出状況

2:トレンチ 3　遺構検出状況

3:トレンチ 7　貝層上面灰集中検出状況

4:ロングトレンチ南側　貝層検出状況

5:ロングトレンチ中央　竪穴住居跡検出状況

6:ロングトレンチ中央　竪穴住居跡内遺物出土状況

7:ロングトレンチ中央　小竪穴半裁状況

8:ロングトレンチ北側　貝層および遺構検出状況

4　立木南遺跡（たちきみなみいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
4	立木南遺跡（たちきみなみいせき）	確認調査	2千教埋セ第501号	2021年6月16日～ 2021年6月29日	470㎡ （3,322㎡）	山下 亮介
		市単費	若葉区加曽利町 947-2、954-3、同6	宅地造成	個人	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

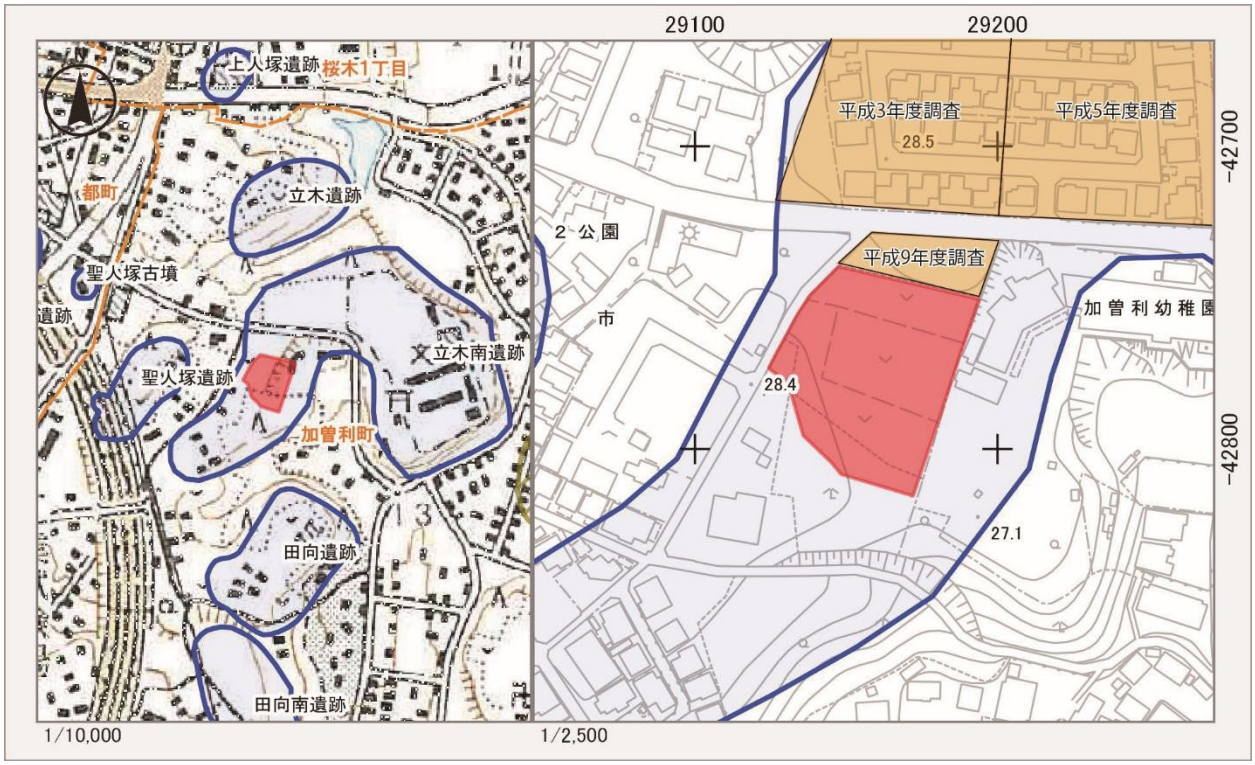


図 10：立木南遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 2 年 11 月 18 日付けで個人から宅地造成計画を前提とした「埋蔵文化財の所在の有無の確認及びその取扱いについて」の依頼があり、試掘調査を実施した結果、古墳時代の竪穴住居跡を確認し、遺跡有回答を通知した。それに伴い令和 3 年 3 月 2 日付けで文化財保護法第 93 条に基づく届出、令和 3 年 4 月 28 日および 5 月２６日付けで 3 名の事業主より埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

（2）調査成果

調査は、対象地に公共座標に合わせた 10mのグリッドを設定し、2m×2.5mのトレンチを 56 箇所に設定して実施したが、設定が困難な場所については任意のトレンチとした。また調査の状況により一部のトレンチについては、拡張して調査した。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：表土層（暗褐色土）、2：褐色土層、3：黒褐色土層及び類似層、4：褐色土層、5：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。1 層は耕作土で 0.25m～0.5mを厚さ測り、東側が厚く堆積する傾向を示している。遺構は、4 層の上面で確認でき、表土上面より 0.45mから 0.6mの深さで確認した。

立木南遺跡は、西から東に張り出す台地上にあり、一部において発掘調査が行われている。昭和 60・61 年度に遺跡の東端部で実施された調査では、古墳時代の竪穴住居跡 7 軒、土坑 1 基、奈良時代の竪穴住居跡 10 軒、平安時代竪穴住居跡 21 軒、土坑 6 基、奈良・平安時代掘立柱建物跡 13 棟、

時期不明竪穴住居跡 8 軒、土坑 8 基、溝跡 3 条を検出し、平成 3・5 年度には遺跡中央部北側と中央部西側の一部において、平安時代竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが確認された。平成 5 年度の確認調査範囲は、平成 7 年度に千葉大学考古学研究室による本調査が行われ旧石器時代石器集中地点 2 箇所、奈良時代竪穴住居跡 4 軒、掘立柱建物跡 7 棟、土坑 18 基などが調査されている。さらに平成 9 年度には本事業地の北側で確認調査が行われ、古墳時代の竪穴住居跡と奈良・平安時代の掘立柱建物跡が確認された。

今回は対象地の中央部北側で 2 軒、東側中央で 1 軒、南側で 2 軒の計 5 軒の古墳時代竪穴住居跡を確認した。このことから遺構の密集域が遺跡の東側にあり、遺跡中央付近では希薄な状態を示している。今回の調査範囲は遺跡の南西側の台地基部の縁辺付近にあたり、遺構の展開が更に南に広がる可能性を示している。

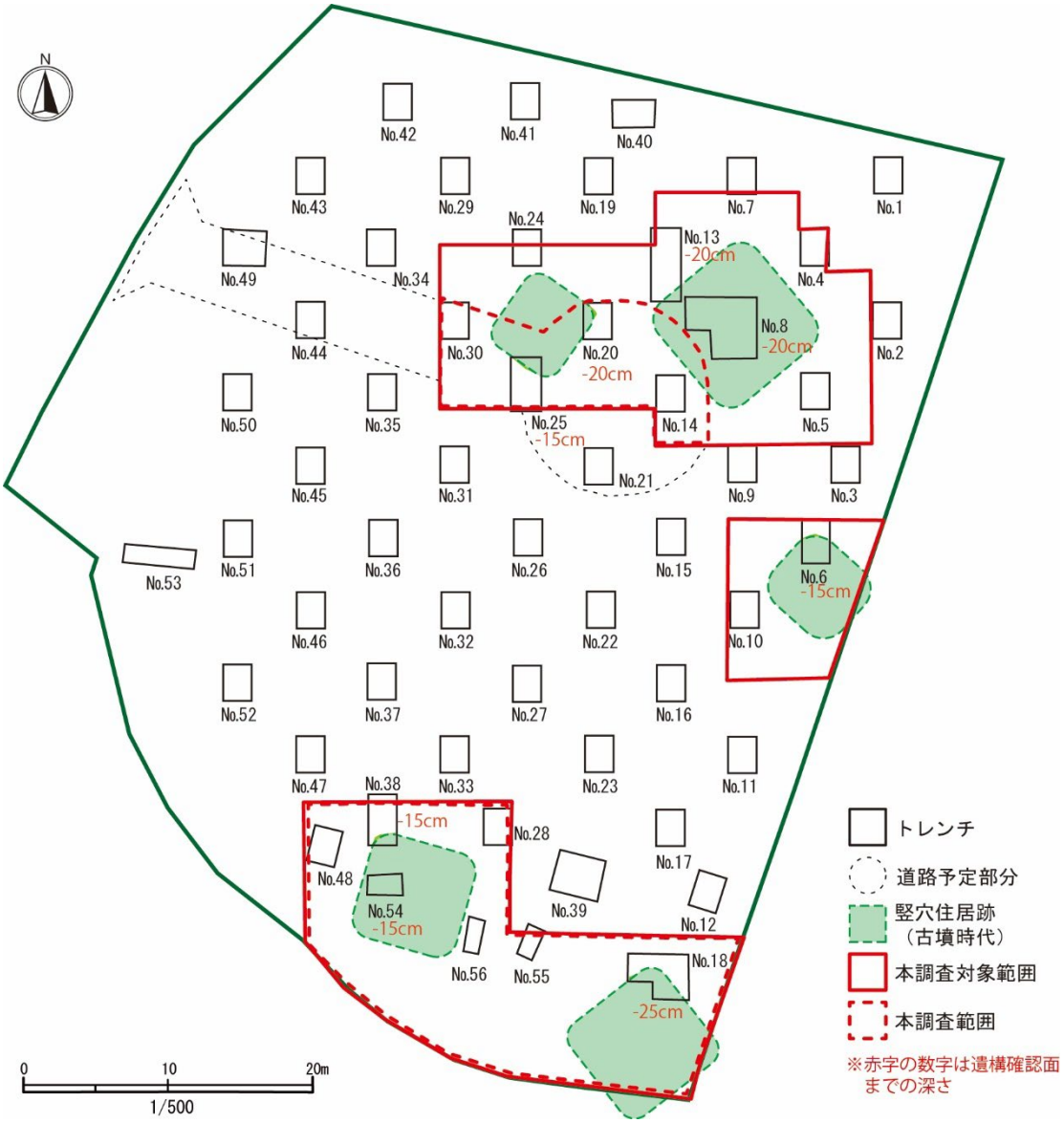
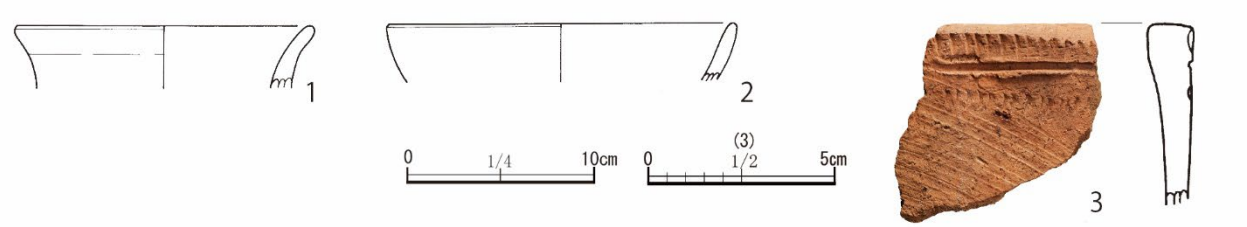


図 11:遺構配置図

（3）出土遺物

縄文土器 1 点、古墳時代の土師器 37 点が出土している。縄文土器は連続刻み文が入った後期の安行 1 式。土師器は住居と思われる遺構確認面上層で主に出土している。



No.	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	古墳	土師器	甕	－	6トレ	外面：口唇ヘラナデ→ヨコナデ。内面：ヨコナデ。胎土に赤褐色のスコリア複数。
2	古墳	土師器	坏	後期 7 世紀以前	43トレ	外面：ヨコナデ、赤彩。内面：劣化、剥離により調整不明。一部赤彩残存。非ロクロ坏。
3	縄文	土器	後期安行	安行1	40トレ	粗製土器、附点紐線文系。条線、横位沈線区画、連続刻み

（4）今後の取り扱い

古墳時代の竪穴住居跡 5 軒を確認したため、その範囲 856 ㎡について本調査対象範囲とした。その後の取り扱いとして、事業を実施するにあたり遺構に影響を及ぼす 470 ㎡については本調査を実施し、残りの 386 ㎡は遺構確認面上に 0.3m の保護層を確保したうえで遺構を保存し、影響の無いように工事を行うことで合意した。

本調査は令和 3 年 10 月 25 日から令和 3 年 12 月 10 日にかけて行われ、令和 4 年度末に報告書刊行予定。

1:発掘調査風景

2:トレンチ 6 遺構検出状況

3:トレンチ 20 遺構検出状況

4:トレンチ 38 遺構検出状況

5　居寒台遺跡（いさむだいいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
5	居寒台遺跡（いさむだいいせき）	確認調査	3千教埋セ第186号	2021年8月31日～ 2021年9月15日	85.0㎡ （869.0㎡）	山下 亮介
		市単費	花見川区浪花町907-4	宅地造成･住宅建築	株式会社コネクト	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

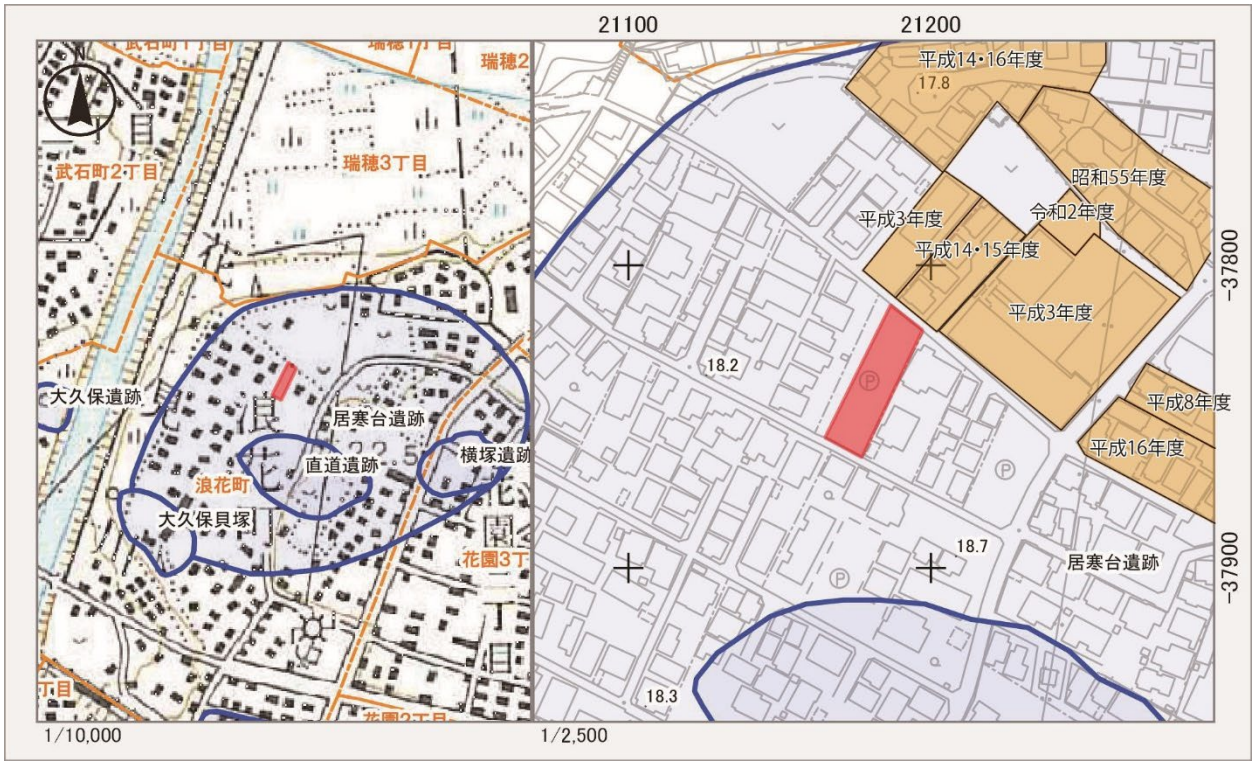


図 12:居寒台遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 3 年 7 月 26 日付けで株式会社コネクトから宅地造成にかかる文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出されたため、試掘調査を実施した。その結果、古墳時代の溝および土坑を確認したため発掘調査指示で事業者に通知した。その後の事業者との協議により確認調査を実施することで協議が整い、令和 3 年 8 月 24 日付け埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査が実施された。

（2）調査成果

調査は対象地の敷地に合わせた 10mのグリッドを設定し、2m×2.5mのトレンチを 17 箇所に設定して実施した。その結果、対象地のほぼ全域において古墳時代の遺構が確認された。確認された遺構は竪穴住居跡 13 軒、土坑 1 基。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：表土層（灰白色土)、2：黄褐色土層、3：褐色土層、4：褐色土層、5：褐色土層（ソフトローム層）からなる。

1 層は砕石主体、2 層は砂主体の盛土層、1～2 層の厚さは 0.35m～0.5mを測る。3 層は砂質土、4 層はローム粒子を含み、共に 0.1～0.2mの厚さで堆積している。遺構は 5 層の上面で確認でき、現表土上面より 0.6mから 0.7mの深さで確認した。

居寒台遺跡は、花見川河口付近の東岸に東から西に張り出す台地上先端部にあり、部分的に発掘調査が行われている。対象地の道路を挟んだ北東部では、昭和から平成にかけて幾度かの発掘調査が行われている。特に平成 3 年度に本調査を実施した北東隣接地では、旧石器時代の遺物集中区 1 箇所、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡 30 軒、掘立柱建物跡 20 棟、時期不明溝状遺構 3 条を確認し、遺構が集中した状況で展開していることが明らかとなった。

今回の調査結果は、隣接地で認められた遺構の密集域が対象地まで広がっており、特に古墳時代の遺構密度が高いことを示している。

（3）出土遺物

時期不明の縄文土器 2 点、古墳時代の土師器 341 点、須恵器 3 点、中近世の陶器類 14 点が出土している。土師器は 7 世紀末から 8 世紀初頭、器種は甕、坏、高坏、甑、鉢などがみられるが、甕が 95%を占めている。

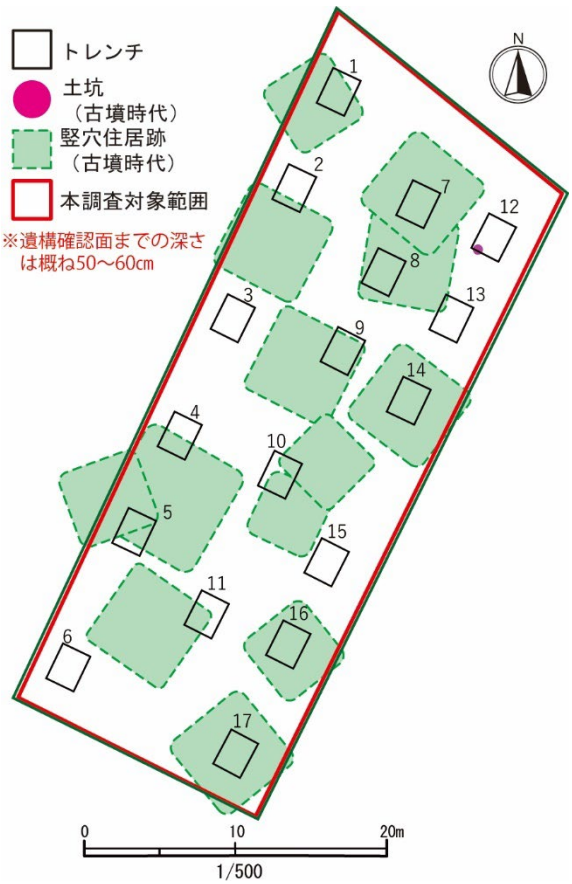
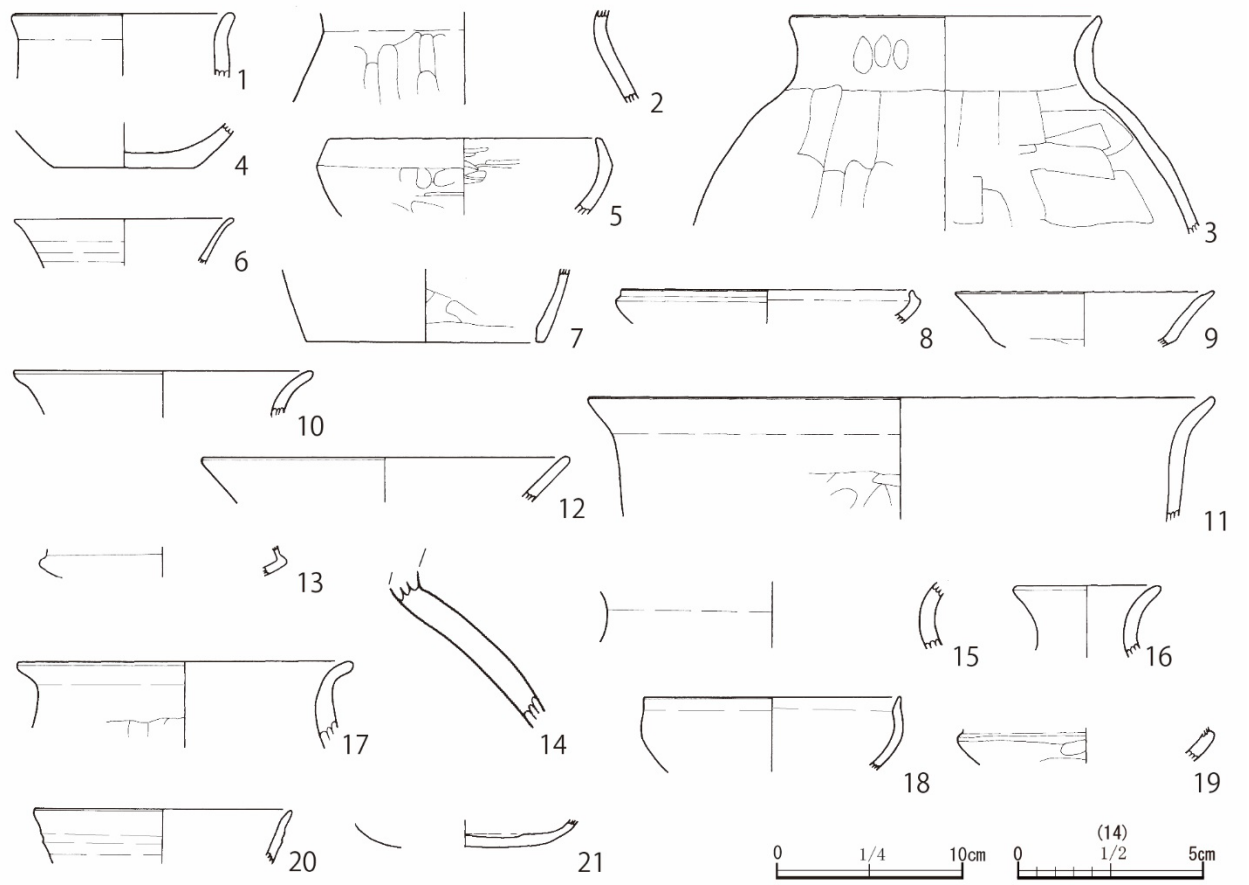


図 13:遺構配置図



No.	時代	種別１	種別２	種別３	出土地点	備考
1	奈良	土師器	甕	8C初頭	１トレ３～５層	外面：ヨコナデ、内面：ヨコナデ
2	奈良	土師器	甕	－	１トレ３～５層	外面：体部ヨコナデ→胴部タテヘラケズリ、内面：ヨコヘラケズリ→ナデ
3	奈良	土師器	甕	－	３・4層	外面：口唇部強くヨコナデ、工具で調整。胴部タテヘラケズリ→頸部ヨコナデ。 内面：口縁ヨコナデ。胴部工具によるヨコナデ。胎土：やや大型の白砂粒多数
4	奈良	土師器	鉢	8C初頭以前	１トレ	外面：ナデ。内面：ヨコヘラケズリ→ミガキ
5	奈良	土師器	坏	－	１トレ	外面：口縁ヨコナデ。体部粗いヨコヘラケズリ。内面：ヘラミガキ、黒色処理
6	奈良	須恵器	長頸壷？	－	２トレ	
7	奈良	土師器	甑	－	４トレ	外面：ヘラケズリ。内面：ヘラケズリ
8	古墳	土師器	坏	7C末～8C初頭	５トレ	蓋模倣坏、外面：口縁ヨコナデ。体部ヘラケズリ？内面：ナデ、黒色処理
9	古墳	土師器	高坏？	6C後半	５トレ	外面：口縁ヨコナデ、体部斜めヘラケズリ。口縁と体部の境に明確な稜あり。 内面：ヨコナデ、黒色処理
10	奈良	土師器	甕	－	５トレ	外面、内面；ヨコナデ
11	古墳	土師器	甕	7C末～8C初頭	５トレ	外面：胴部ヘラケズリ→口縁～頸部ヨコナデ。内面：口縁ヨコナデ。胴部ヘラケズリ
12	奈良	土師器	甕	－	７トレ	外面：ヨコナデ、下端ヘラケズリ。内面：ヨコナデ
13	古墳	土師器	坏	7C末～8C初頭	８トレ	外面：口縁ヨコナデ。体部ヘラケズリ？内面：ミガキ、黒色処理
14	奈良	土師器	甕	－	10トレ	外面：上端強くナデ、ヘラケズリ。内面：ヘラナデ
15	奈良	土師器	甕	8C初頭	10トレ	外、内面：弱くナデ、胎土：白砂粒多数。
16	奈良	土師器	甕	8C初頭	10トレ	外、内面：ヨコナデ
17	奈良	土師器	甕	8C初頭	14トレ	外面：口縁ヨコナデ→胴部タテヘラケズリ、黒色処理。内面：口縁ヨコナデ
18	古墳	土師器	坏（鉢?）	7C末～8C初頭	14トレ	赤彩。外面：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：ヨコナデ
19	古墳	土師器	坏	6C後半	14トレ	外面：体部ヘラケズリ。内面：ミガキ
20	中・近世	土師器	不明	中・近世以降？	16トレ	外面：口縁下に横沈線が平行に2本施文、ヨコナデ。内面：ヨコナデ
21	奈良	土師器	坏	－	17トレ	外面：回転ヘラケズリ調整。内面：ナデ
22	古代	土製品	支脚	－	２トレ３・４層	

図 14:居寒台遺跡出土遺物

（4）今後の取り扱い

調査の結果から対象地 869 ㎡の全域ついて本調査対象範囲とした。そのため事業を実施する際には対象地全域において遺構確認面上に 30 ㎝の保護層を確保したうえで遺構を保存し、影響の無いように工事を行うことで合意した。

1:調査風景

2:トレンチ 1　遺構検出状況

3:トレンチ 4　遺構検出状況

4:トレンチ 6　遺構検出状況

5:トレンチ 10　遺構検出状況

6:トレンチ 12　ピット遺構検出状況

6　高崎台遺跡（たかさきだいいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
6	高崎台遺跡（たかさきだいいせき）	確認調査	3千教埋セ第462号	2022年3月22日～ 2022年3月31日	115.0㎡ (1,209.12㎡)	松田 光太郎
		市単費	中央区星久喜町 315の一部	宅地造成	個人	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

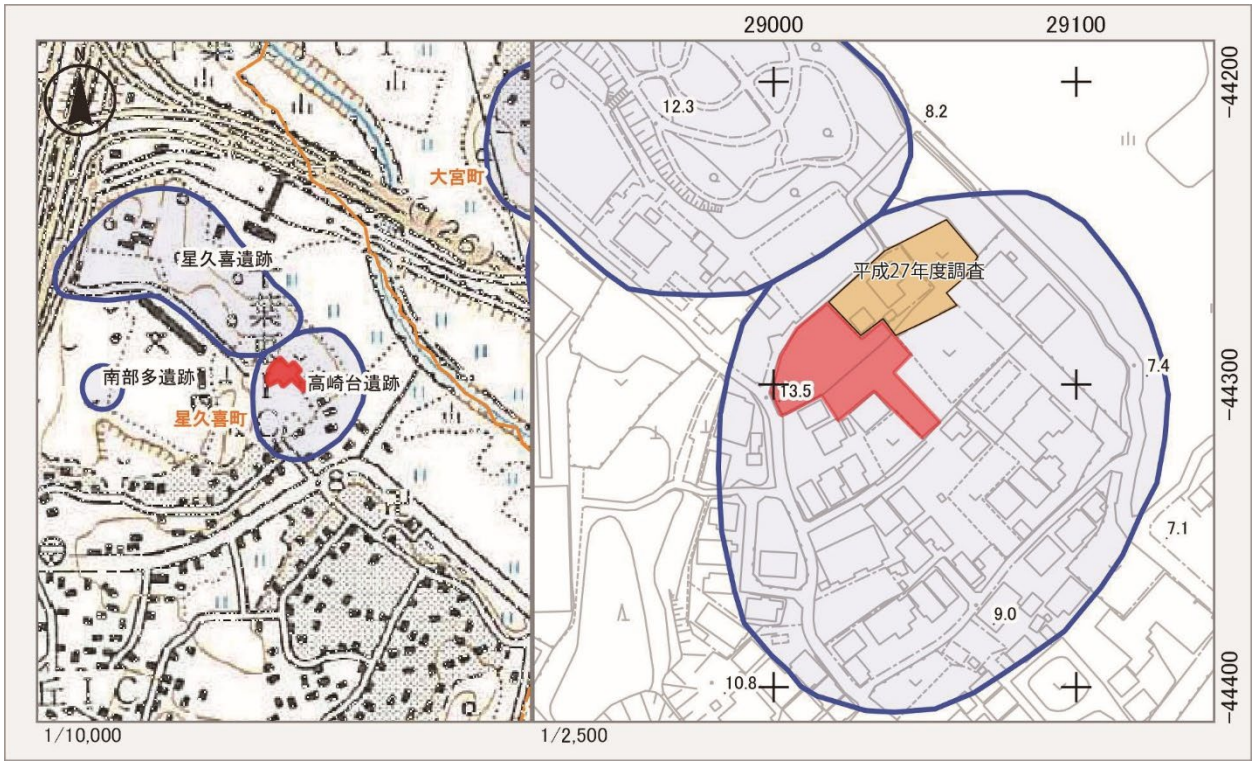


図 15:高崎台遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 4 年 1 月 31 日付けで宅地造成を計画する個人から文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出されたため、試掘調査を実施した。その結果、覆土に貝層が混じる竪穴住居跡を検出したため、工事着手前の発掘調査指示を通知した。その後、確認調査を行うことで協議が整い、令和 4 年 3 月 12 日付けの埋蔵文化財発掘調査依頼を受けて確認調査を実施した。

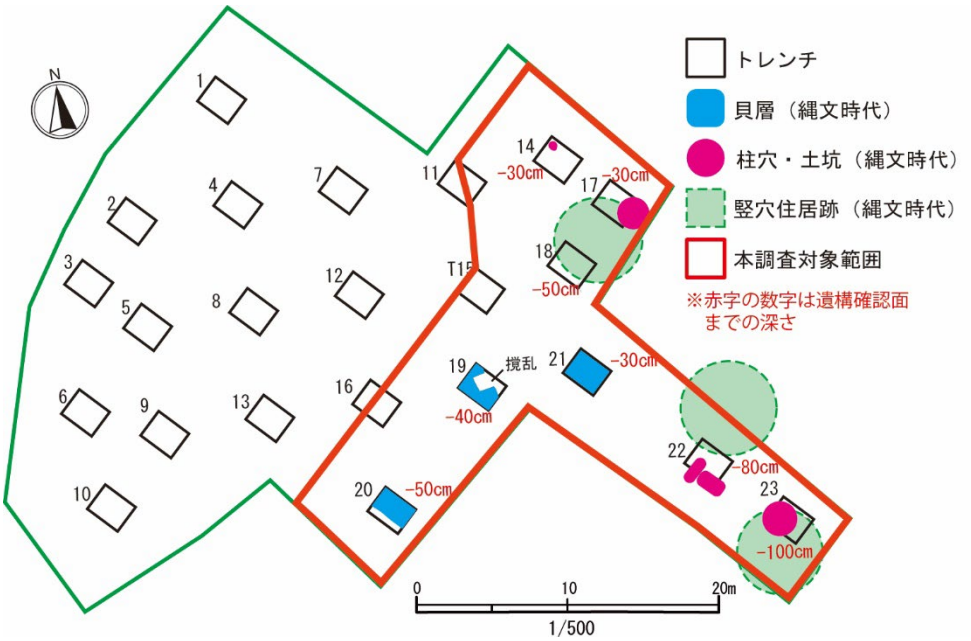


図 16:遺構配置図

（2）調査成果

縄文時代後期の竪穴住居跡 3 軒、土坑・柱穴 5 基、貝層 6 か所を確認した。トレンチ 17 から 20 を境に西側の台地上平坦部と東側の斜面部に分かれ、この平坦部際から後期前葉の竪穴住居跡や貝層を検出した。貝層はハマグリ、イボキサゴを主体として、シオフキ、バカガイ、アサリ、カガミガイ、マガキ、バイ、アカニシなどで構成されている。採取した貝サンプルの分析結果は別の機会に報告予定。

（3）出土遺物

縄文時代後期の堀之内式土器を主体とした縄文土器 265 点、打製石斧、磨石類、ヘラ状貝製品、人骨などが出土している。

No.	時代	種別１	種別２	種別３	出土地点	備考
1	縄文	土器	堀之内	堀之内１	18トレ	波状口縁に沿う２本組斜行沈線４条。LR
2	縄文	土器	堀之内	堀之内１	18トレ	縦位沈線、RL
3	縄文	土器	堀之内	堀之内１	19トレ	平縁。口縁横位沈線区画・縦・斜行沈線。LR
4	縄文	土器	堀之内	堀之内１	19トレ 貝層	平縁。口縁横位沈線区画・縦・斜行沈線。LR
5	縄文	土器	堀之内	堀之内１	19トレ	内外に肥厚する口縁、内外面に刺突
6	縄文	土器	堀之内	堀之内１	21トレ	縦沈線区画内に短沈線、弧状沈線意匠文３条。縄文不明
7	縄文	土器	堀之内	堀之内１	21トレ	２本組弧状沈線意匠文。無節L
8	縄文	土器	堀之内	堀之内１	21トレ	波状口縁。口唇直下横位沈線区画。縦刻み隆帯区画、沈線意匠文３条。LR
9	縄文	土器	堀之内	堀之内２	21トレ	沈線意匠文３条。LR
10	縄文	土器	堀之内	堀之内２	22トレ カツ	平縁。口縁横位沈線区画、縦・斜行沈線。LR
11	縄文	土器	堀之内	堀之内２	22トレ	平縁、内面沈線。細沈線横位区画・意匠文。LR
12	縄文	土器	堀之内	堀之内２	22トレ カツ	平縁、口唇内屈。平行沈線内LR充填
13	縄文	土器	堀之内	堀之内２	22トレ カツ	沈線意匠文内LR充填
14	縄文	土器	阿玉台	阿玉台Ⅲ		隆帯＋幅広角押文による枠状文

（4）今後の取り扱い

貝層と遺構が集中する範囲を中心に 462 ㎡について本調査対象範囲とし、協議を重ねた結果、30㎝以上の保護層を設け、現地にて現状保存することとなった。

1:調査風景

2:トレンチ１　遺構検出状況

3:トレンチ 17　貝層検出状況

4:トレンチ 19　遺構検出状況

7　聖天遺跡（しょうてんいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
7	聖天遺跡（しょうてんいせき）	確認調査	4千教埋セ第42号	2022年5月31日～ 2022年6月7日	44.3㎡ （499.82㎡）	木口 裕史
		市単費	若葉区多部田町 65-1の一部、同7	店舗建設	個人	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

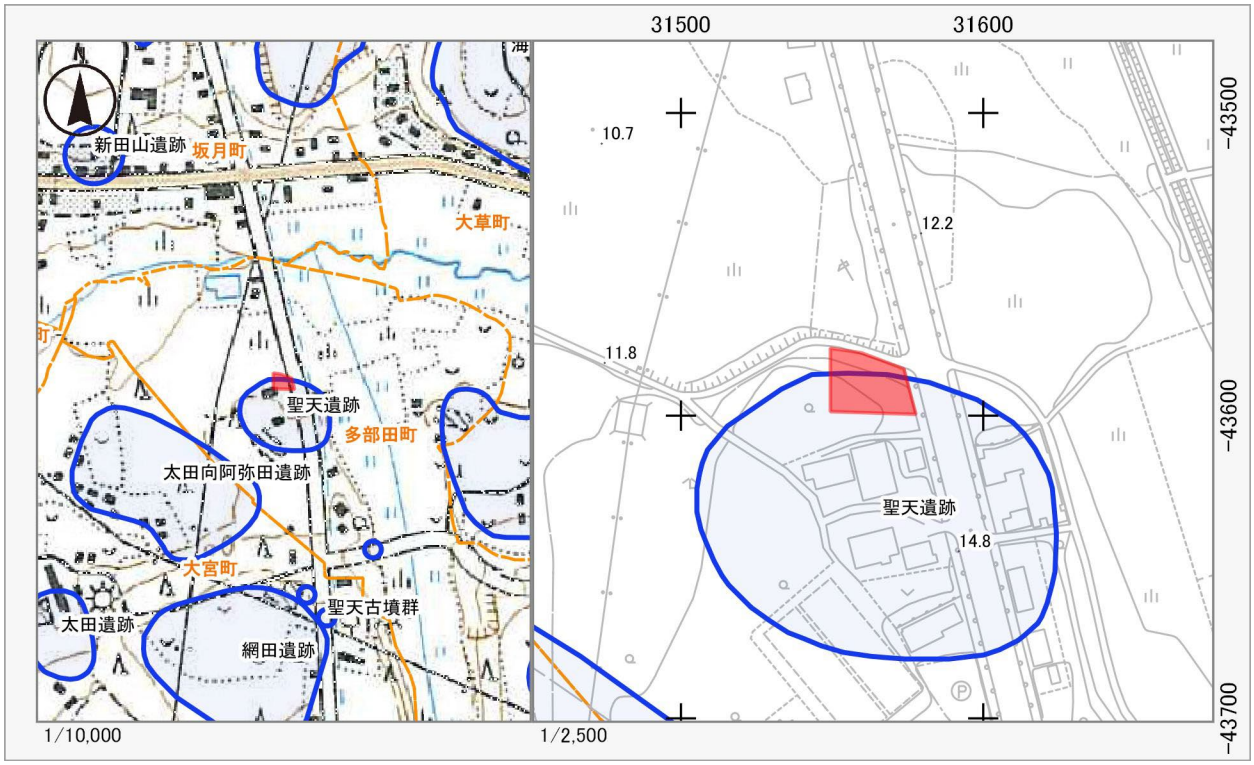


図 17:聖天遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 4 年 4 月 18 日付けで店舗建設を計画する個人から文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出された。これを受けて行われた試掘調査にて、古墳時代と思われる竪穴住居跡を検出したため、工事着手前の発掘調査指示を通知。その後、確認調査を行うことで協議が整い令和 4 年 5 月 26 日付けの埋蔵文化財発掘調査依頼を受けて確認調査を実施した。

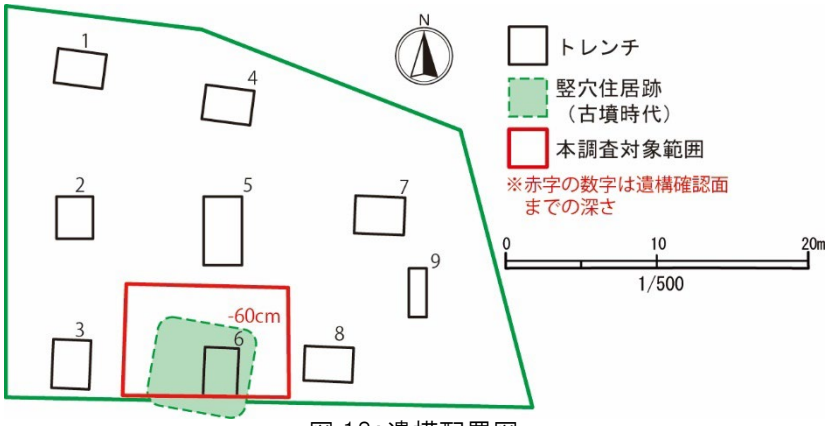


図 18:遺構配置図

（2）調査成果

3×2m を基本とし、事業地内に 9 か所のトレンチを設定した。北側と東側は県の工業用水の工事の際に大きくかく乱されており、ハードロームまで削られているうえ、表土も強く転圧されている。

トレンチ 2、3、5、6、8 では旧表土の褐色土が確認できたが、遺構が確認されたのは、トレンチ 6 の竪穴住居跡のみであった。床面直上には焼土が広く検出され、その中から鉄滓や、ほぼ完形の

土師器の坏が出土している。本遺跡では過去に調査歴がなく、詳細が不明であったが今回の調査にてその一端を明らかにすることができた。

（3）出土遺物

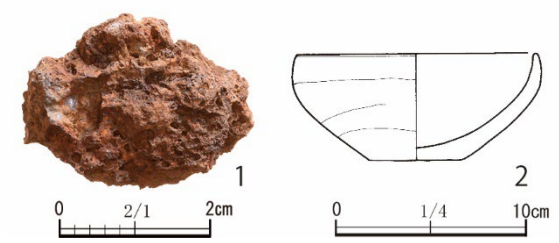


図 19:トレンチ 6 出土　土師器坏

No.	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	古墳	金属類	鉄滓	－	トレンチ6	
2	古墳	土師器	坏	8Ｃ初頭	トレンチ6	内面：赤彩、ナデ。外面：口縁ナデ、体～底部へラケズリ。口縁部に2か所欠けがあるが、注ぎ口としてしばらくの間、使用されていた様子。

縄文土器 2 点、土師器 25 点、鉄滓が出土。縄文土器は前期の条痕文系のもので、台地の上からの流れ込みか。トレンチ 6 で出土した土師器は口縁が 2 か所欠けているが、摩耗している様子からこの状態で長く使用されていたと思われる。

（4）今後の取り扱い

古墳時代の竪穴住居跡が確認された 54 ㎡について本調査対象範囲とした。協議の結果、遺構確認面上に 30 ㎝の保護層を確保して遺構を保存し、工事を行うことで合意した。

1:調査風景　事業地北から

2:調査風景　事業地東から

3:トレンチ No.6　遺構検出状況

4:トレンチ No.6　土師器坏出土状況

8　柳沢遺跡・玄藤遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
8	柳沢遺跡・玄藤遺跡	確認調査	4千教埋セ第52号	2022年6月28日～2022年7月28日	342㎡（4,083㎡）	佐藤　洋
		市単費	若葉区小倉町 965-1、1024-2、1023-5	博物館および周辺施設整備	千葉市	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

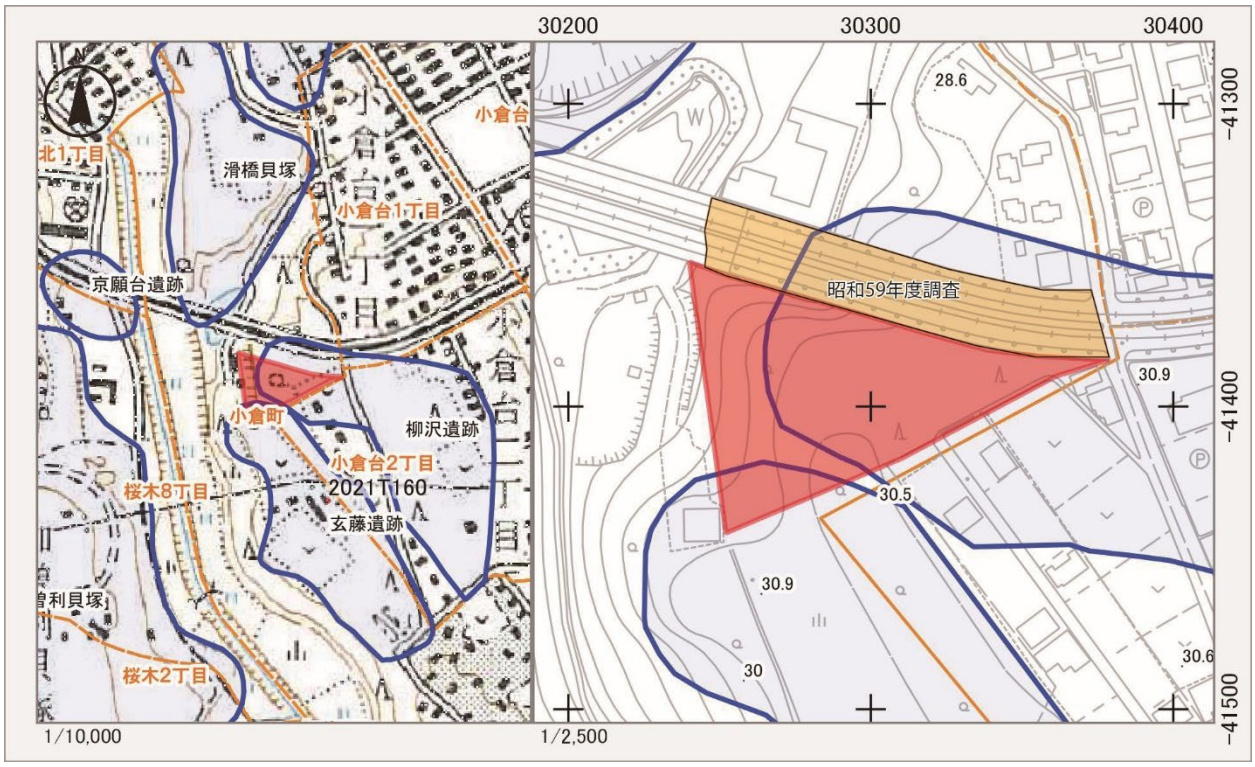


図 20：柳沢遺跡・玄藤遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 4 年 4 月 25 日付けで、千葉市教育委員会教育長より特別史跡加曽利貝塚新博物館整備事業に伴う文化財保護法第 94 条に基づく通知がなされた。事業地の北側では昭和 59 年に本調査が実施され、縄文時代の遺構等が確認されている。本事業地においてもその存在が予測されるため、本調査の要否および範囲を確定するための確認調査を行うことで協議が整い、令和 4 年 6 月 24 日付けの埋蔵文化財発掘調査依頼を受けて確認調査を実施した。

事業地は柳沢遺跡から玄藤遺跡にまたがる 17,634 ㎡であるが、今年度はその内 4,083 ㎡を対象として確認調査を実施した。

（2）調査成果

事業地は樹木が林立しており、それを避けながら調査区の全域をカバーするように 67 か所のトレンチを設定した。基本的な層序は、1：表土層、2：黒褐色土層（遺物包含層）、3：暗褐色土層、4：明褐色土層（ソフトローム層）であり、地点によって層厚は異なる。とくに 3 層は台地の奥側の東へ行くほど厚く堆積する傾向がみられた。

今回の調査では事業地の広範囲に縄文時代中期前半（阿玉台・勝坂後半期）の遺物包含層が広がっていることが確認されたほか、同時期の竪穴住居跡 8 軒、土坑 39 基、ピット 84 基、焼土範囲 1 か所が検出され、同時期の集落の存在が確認された。加曽利北貝塚等の中期大型貝塚が成立する直前期にあたり、加曽利貝塚の成立を考えるうえでも重要な遺跡と考えられる。

（3）出土遺物

出土遺物はすべて縄文時代に属するもので、土器 317 点、土器片錘 4 点、打製石斧 2 点、磨石類 3 点、石皿 1 点、剥片類 7 点が出土している。縄文土器は中期の阿玉台式から勝坂式が主体で 259 点を占める。数は少ないが前期の諸磯式や中期の加曽利 E II 式、後期の称名寺式なども出土している。

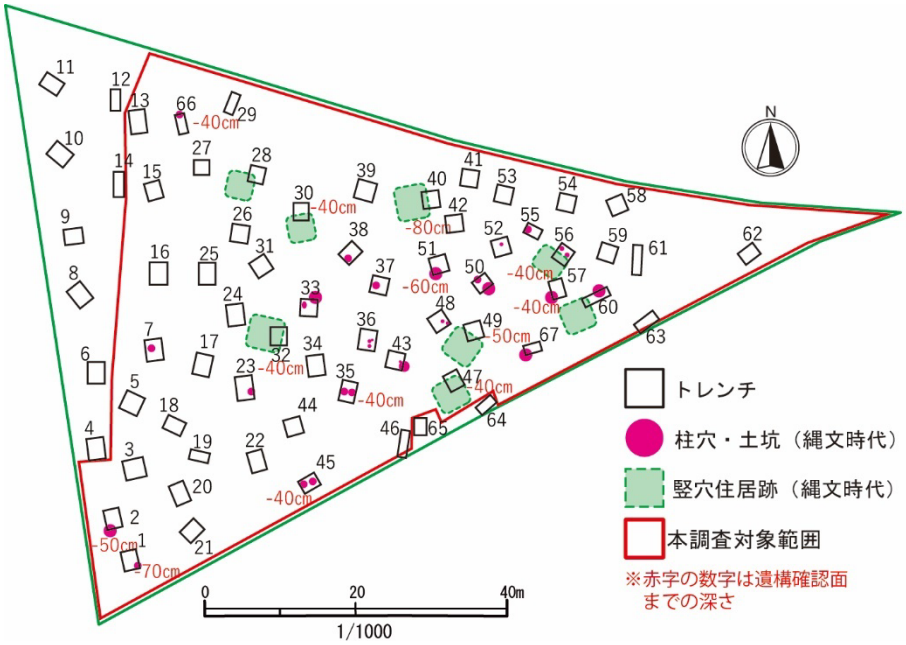
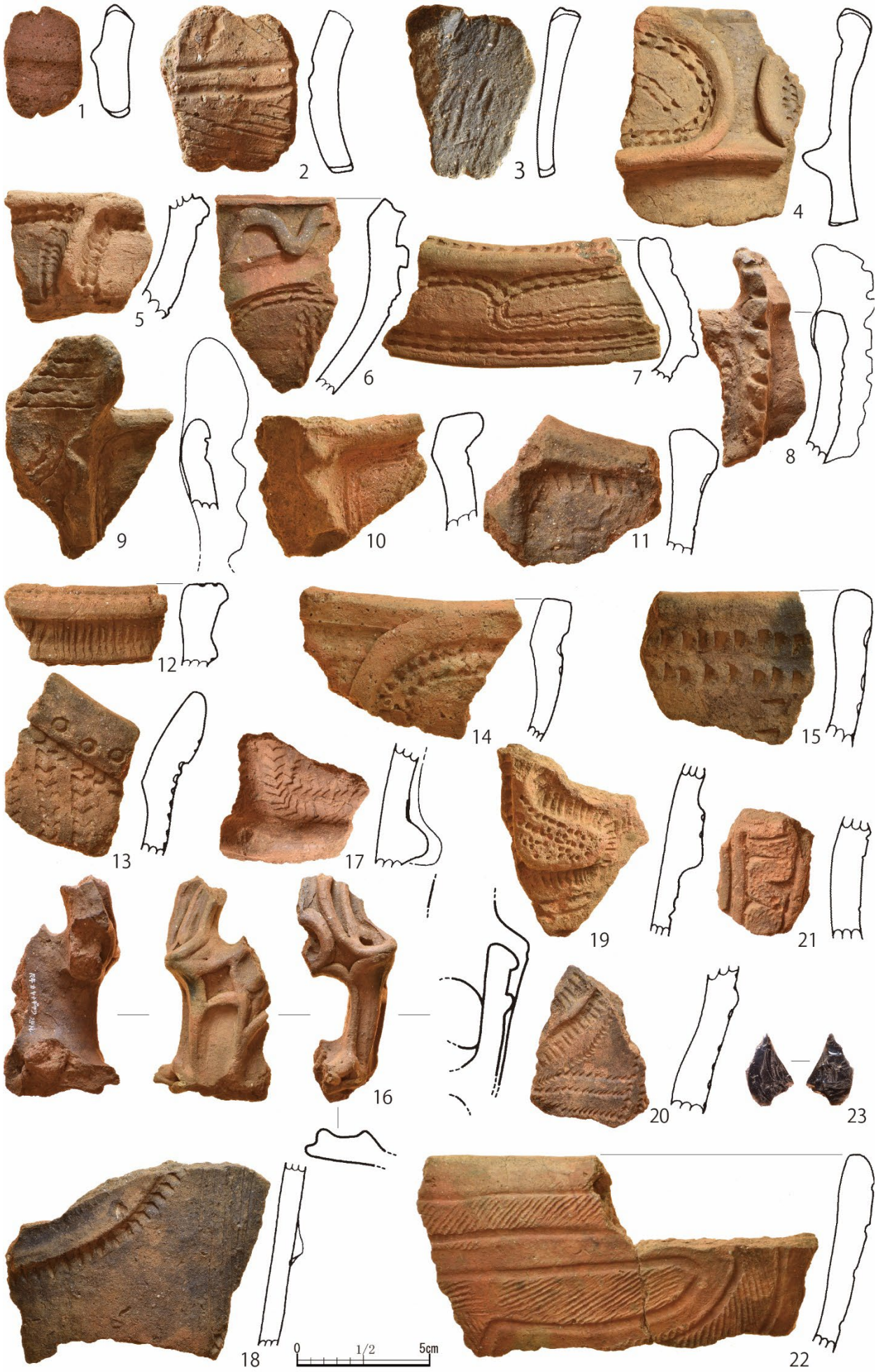


図 21：遺構配置図

No.	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	縄文	土製品	土器片錘	阿玉台 I ～ II	トレンチ60	完形、両端に切り込み
2	縄文	土製品	土器片錘	勝坂～E I ？	トレンチ31	完形、両端に切り込み
3	縄文	土製品	土器片錘	阿玉台	トレンチ38	完形、両端に切り込み
4	縄文	土製品	土器片錘	阿玉台 III	トレンチ47	完形、両端に切り込み
5	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台	トレンチ51	隆帯＋２条角押文による枠状文
6	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ51	隆帯区画内に蛇行隆帯、有節沈線意匠文
7	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ48	隆帯＋有節沈線区画内に有節平行沈線意匠文
8	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ25	刻み隆帯～突起
9	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ59	刻み隆帯～突起。有節平行沈線
10	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ35	刻み隆帯～突起。有節平行沈線。雲母多
11	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 III	トレンチ31	隆帯＋幅広角押文。雲母多
12	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II ～ III	トレンチ51	口唇上と横位隆帯に有節平行沈線。短沈線充填
13	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台・勝坂	トレンチ60	肥厚口縁下端に剣先状角押文。口縁に円形刺突
14	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ60	隆帯＋有節沈線区画
15	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 III	トレンチ52	爪形刺突列横・縦区画
16	縄文	土器	中期中葉	栃倉 1	トレンチ24	口縁につく高い突起。貼付隆帯意匠文
17	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ25	隆帯＋剣先状角押文区画
18	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ25	隆帯＋剣先状角押文区画。縦沈線
19	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ42	隆帯＋幅広角押文区画。隆帯上に刺突
20	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ42	隆帯＋幅広角押文区画。幅狭連続刺突
21	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ８	管内痕もつ沈線区画内に蛇行文、LR
22	縄文	土器	称名寺	称名寺 1	トレンチ52	平行沈線内にLR充填
23	縄文	石器	剥片		トレンチ59	黒曜石小片

（4）今後の取り扱い

今回の確認調査で事業地の広範囲に遺構が分布していることが確認されたため、攪乱や削平で遺構が確認されなかった部分を除き、3,560 ㎡を本調査対象範囲とした。本調査は令和 5 年度に実施する予定となっている。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
0
1/2
5cm

1:基本層序

2:トレンチ 30 セクション

3:トレンチ 32 セクション

4:トレンチ 35 遺構検出状況

5:トレンチ 45 遺構検出状況

6:トレンチ 45 遺物出土状況

7:トレンチ 49 遺構検出状況

8:トレンチ 60 遺構検出状況

9　和唐地遺跡・琵琶首台遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
9	和唐地遺跡・琵琶首台遺跡	確認調査	4千教埋セ第26号	2022年7月14日～2022年8月15日	315.0㎡（8609.84㎡）	木口 裕史
		国庫補助	中央区星久喜町938、954～959、938～954地先赤道、956地先赤道	宅地造成	有限会社開成	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

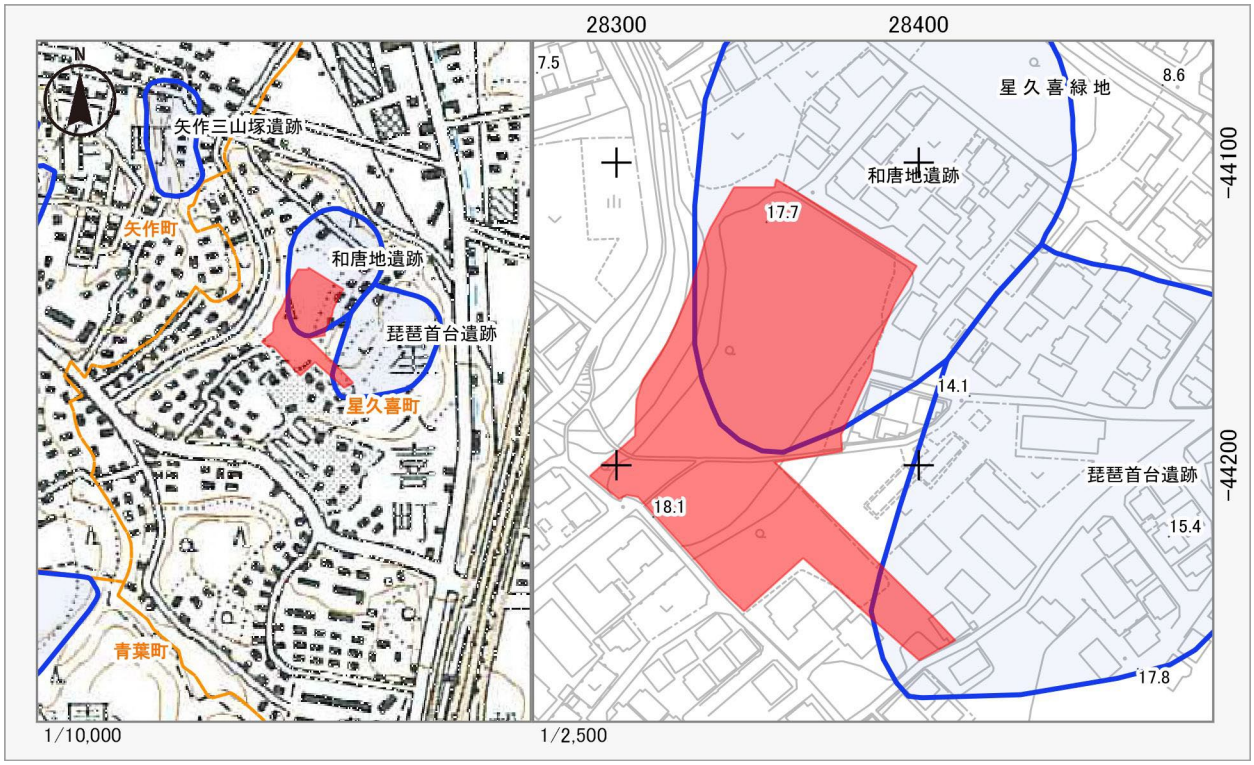


図 22:和唐地遺跡･琵琶首台遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 4 年 4 月 12 日付けで有限会社開成から宅地造成にかかる文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出され、試掘調査を行ったところ和唐地遺跡に掛かる範囲において、古墳時代の竪穴住居跡が検出された。これを受けて、埋蔵文化財の広がりを確認することで協議が整い、令和 4 年 6 月 7 日付けで埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

（2）調査成果

事業地は深い樹木や竹林に覆われており、グリッドを設定して調査を行うことが困難であったため、樹木の合間を伐開しながら、トレンチを掘削することとなった。トレンチは 3×2m を基本とし、53 カ所、315 ㎡の調査を実施した。

和唐地遺跡の範囲では事業地の北側の宅地造成の際の試掘調査で古墳時代前期の竪穴住居跡が確認されている。今回の調査でも遺構密度は低いものの広範囲に古墳時代の遺構が分布している状況が確認された。古墳時代の竪穴住居跡 3 軒、円形周溝墓 1 基、溝状遺構 2 基、土坑 2 基、ピット 22 基など。

琵琶首台遺跡の範囲では、宅地造成の際に試掘調査が幾度か行われているが、これまでに埋蔵文化財は確認されていない。本事業地にかかるエリアでも、既存建物の解体時にローム層まで攪乱されており、縄文土器や土師器を表採することができたが、埋蔵文化財を確認することはできなかった。

これによって、和唐地遺跡にかかる 3,300 ㎡が本調査対象範囲となった。

（3）出土遺物

和唐地遺跡では縄文土器 9 点、弥生土器 2 点、土師器 61 点、旧石器時代の剥片 1 点、縄文時代の打製石斧 1 点が出土。琵琶首台遺跡ではトレンチ周辺で縄文土器の底部 1 点と土師器 5 点を表採した。

和唐地遺跡で出土した土師器のうち、トレンチ 34 で出土したもの（遺物 6）には、内面にくっきりと籾痕が残されていた。

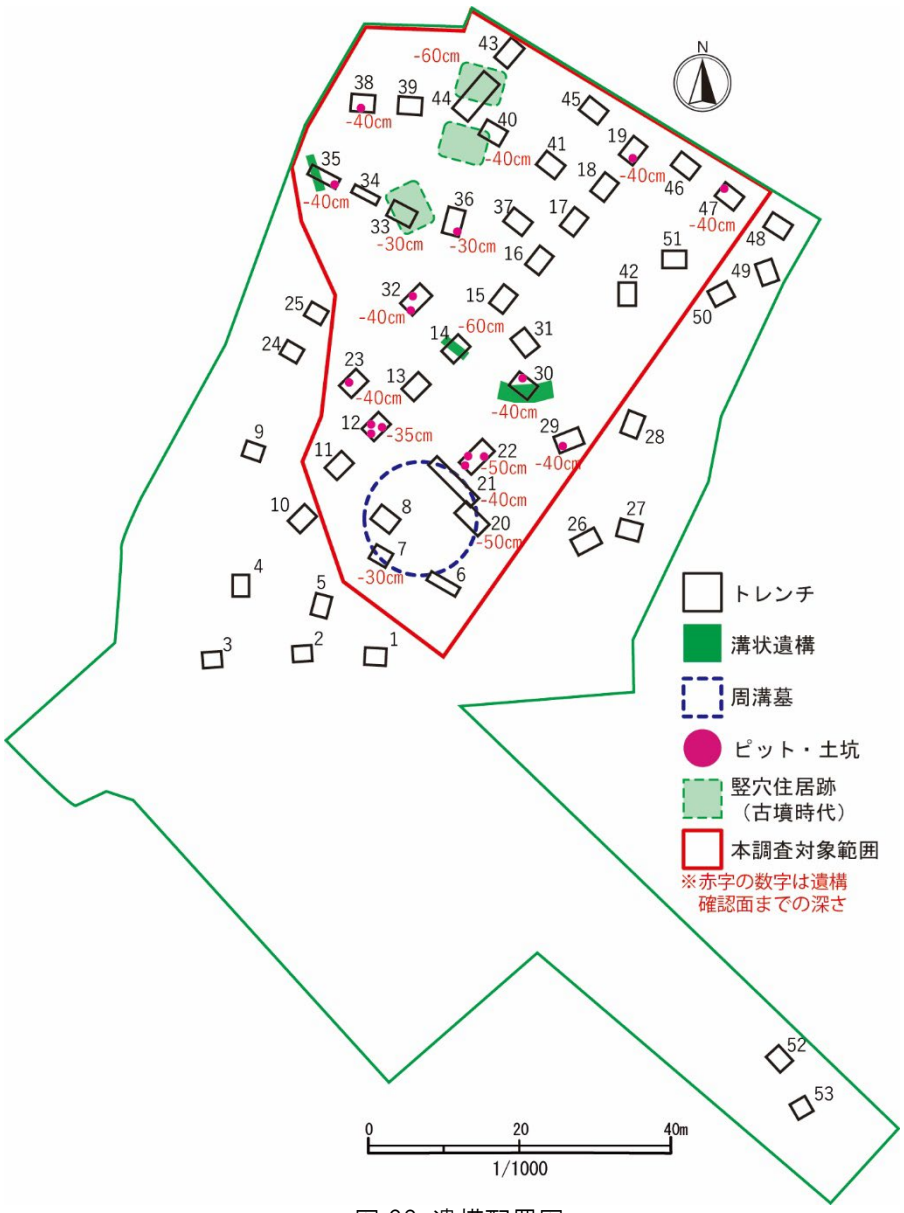
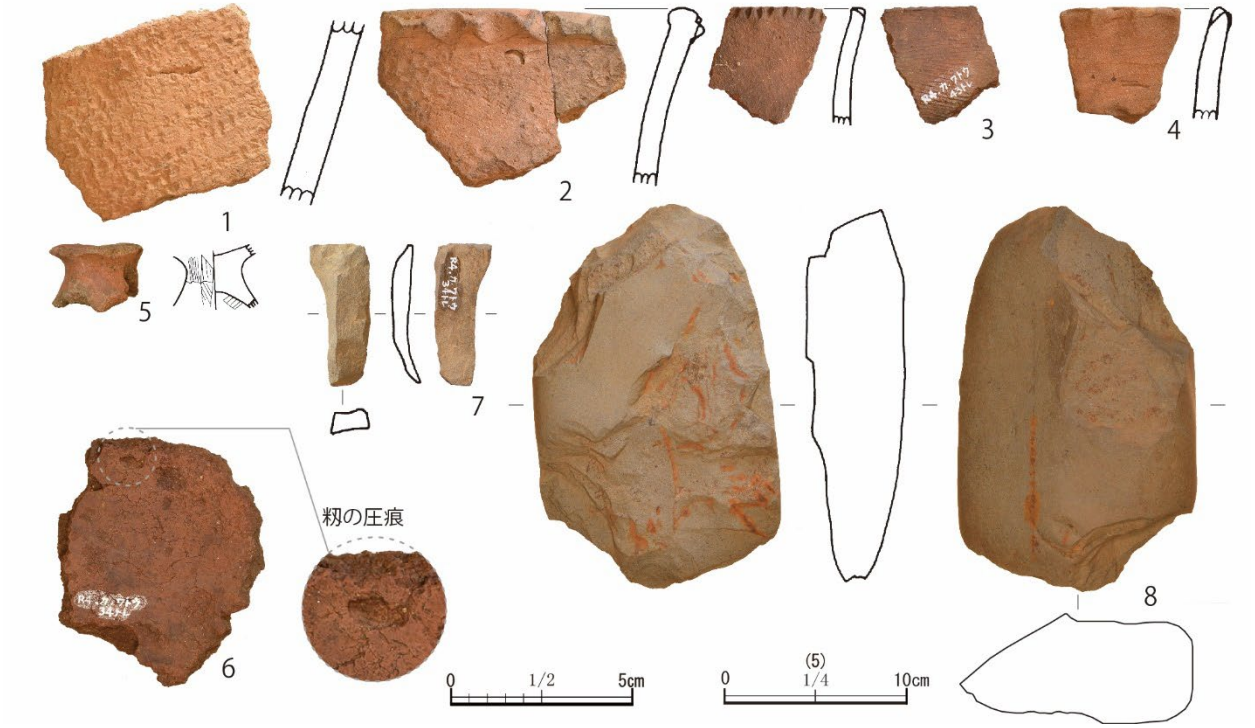


図 23：遺構配置図



No.	時代	種別１	種別２	種別３	出土地点	備考
1	縄文	土器	羽状縄文土器	関山or黒浜	表採	LR
2	縄文	土器	加曽利B	加曽利B2	トレンチ21	紐線文系平縁、内面沈線。口唇直下に刻み隆帯。LR
3	弥生	土器	甕	宮ノ台	トレンチ43	内面ハケ、口唇部刻み、外面ナデ。
4	弥生	土器	甕	宮ノ台	トレンチ44竪穴建物跡内	内面ハケ、口唇部表裏押捺、外面板状工具によるナデ。
5	古墳	土師器	高坏	－	表採	台部。外面：ナデ強。
6	古墳	土師器	甕	－	トレンチ34	籾痕あり。
7	旧石器	石器	剝片	－	トレンチ34	
8	縄文	石器	打斧	－	表採	折れた磨製石斧に刃をつけて再利用している。

（４）今後の取り扱い

遺跡の保護について協議を重ねてきたが、大幅な計画変更は難しく、令和４年 12 月上旬から本調査対象範囲の内、約 3,000 ㎡について本調査を実施することとなった。

1:調査風景

2:トレンチ８　古墳周溝検出状況

3:トレンチ 14　溝状遺構検出状況

4:トレンチ 20、21　古墳周溝検出状況

5:トレンチ 40　竪穴住居跡検出状況

6:トレンチ 44　竪穴住居跡検出状況

１０　地蔵作遺跡（じぞうさくいせき）

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
10	地蔵作遺跡（じぞうさくいせき）	確認調査	4千教埋セ第177号	2022年8月31日～ 2022年9月14日	164.0㎡ （2,043㎡）	木口 裕史
		国庫補助	花見川区長作町 959-1、1265-1、同3	店舗建設	個人	

＊調査面積の下段( )内は事業面積

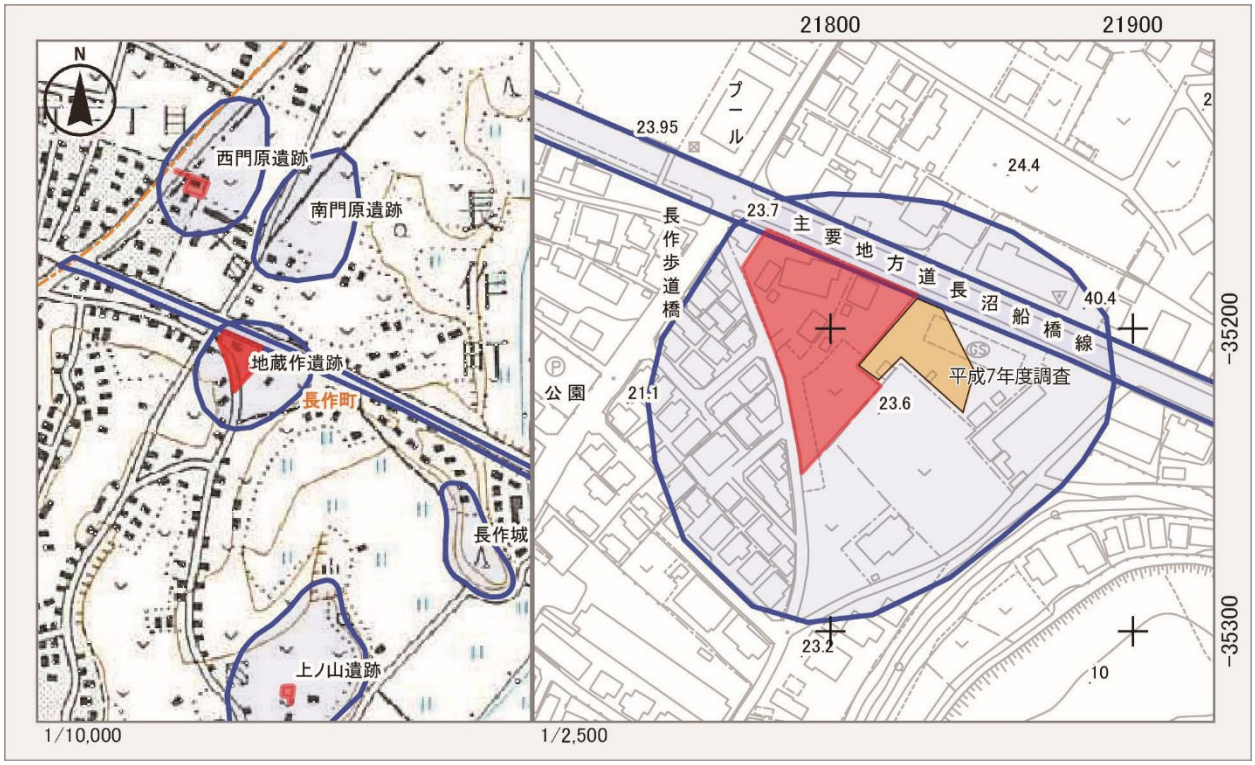


図 24：地蔵作遺跡位置図

（1）調査に至る経緯

令和 4 年 7 月 7 日付けで個人から店舗建設のための文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出された。試掘調査を行ったところ中世から近世にかけてと思われる土坑が列をなし溝状に並ぶ遺構 1 条を確認した。これを受けて、埋蔵文化財の広がりを確認することで協議が整い、令和 4 年 8 月 19 日付けで埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

（2）調査成果

10m グリッドを設定し、約 3×3m のトレンチを 16 カ所、3×1m を 1 カ所、5×2m を 1 カ所の計 18 カ所、約 164 ㎡の調査を行ったところ、縄文時代の竪穴住居跡、土坑、中世から近世の土坑列を確認した。事業地の東側では平成 7 年度にガソリンスタンド建設に伴う本調査が行われ、縄文時代の竪穴住居跡 4 軒、小竪穴 1 基と中世の土坑列を調査している。今回検出されたものはその続きだと考えられる。事業地内での縄文時代の遺構の分布範囲は東側に集中しており、平成 7 年度調査の範囲を含めて径 40m ほどの範囲に集中している可能性が高い。

中世の土坑列はトレンチ 3、4、8、13 で確認されており。北西方向に一直線につながっている様子が確認された。この土坑列は検出時にはつながっていて溝状に見えるが、掘り下げていくとひとつひとつの土坑の輪郭が現れ、直径 2m ほどの土坑が列をなす様子が確認できる。平成 7 年度調査では野馬堀と想定されているが、セクションの観察から掘削した後、間を置かずに埋め戻されていることから、耕作に関連して、種イモや野菜などを保管するための室ではないかと思われる。

トレンチ９の竪穴住居跡は壁沿いに幅 30 ㎝でサブトレを設定して掘削を行ったが、遺物の出土が多かったため、確認にとどめた。平面プランも攪乱に切られているため明瞭ではないが、円形と想定される。

（３）出土遺物

縄文土器 88 点、土師器 2 点、陶器 30 点、磁器 3 点が出土。縄文土器の 90%は竪穴住居跡が確認されているトレンチ 9 から出土している。時期は加曽利 EⅡ、器種は深鉢が多い。

陶器や磁器は耕作によって砕かれた小片ばかりで、表土や近世土坑などから出土する。

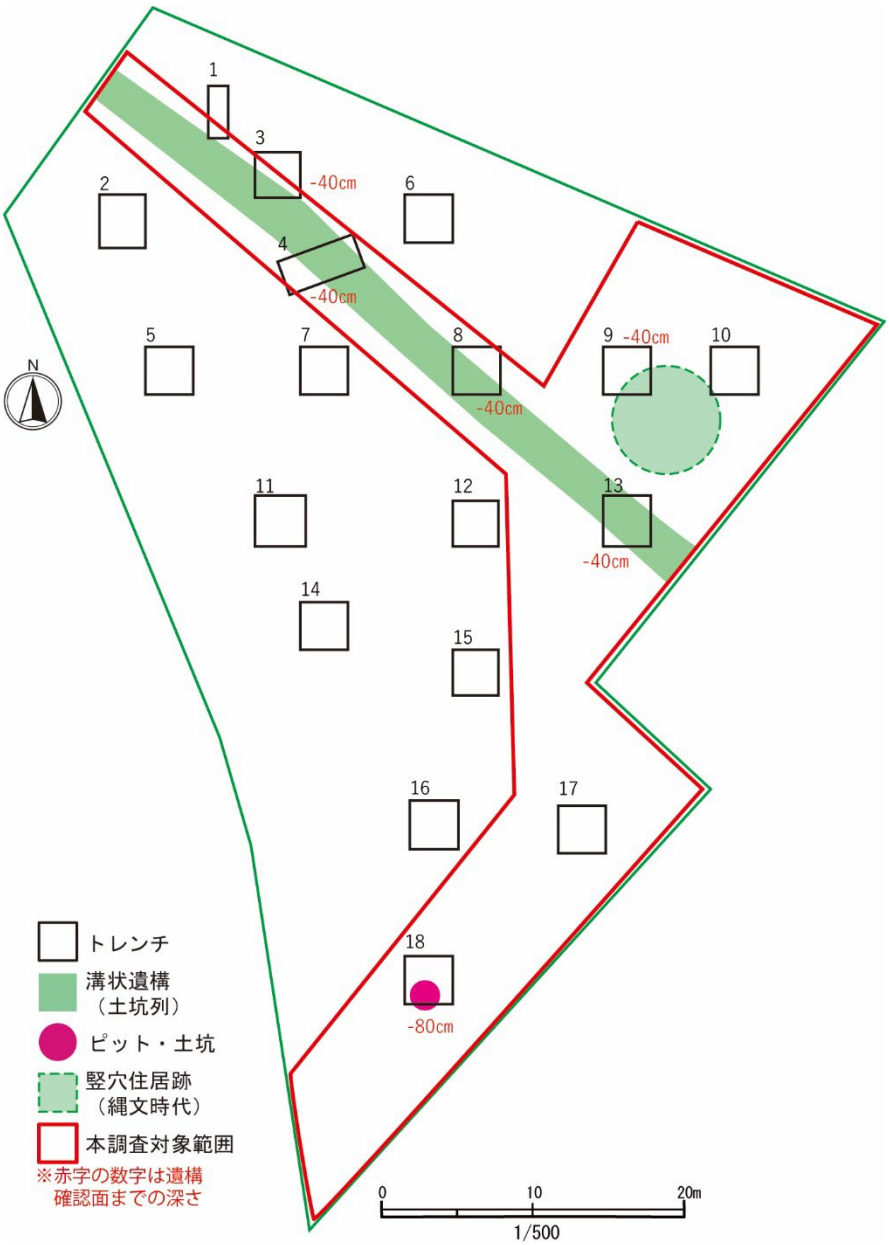
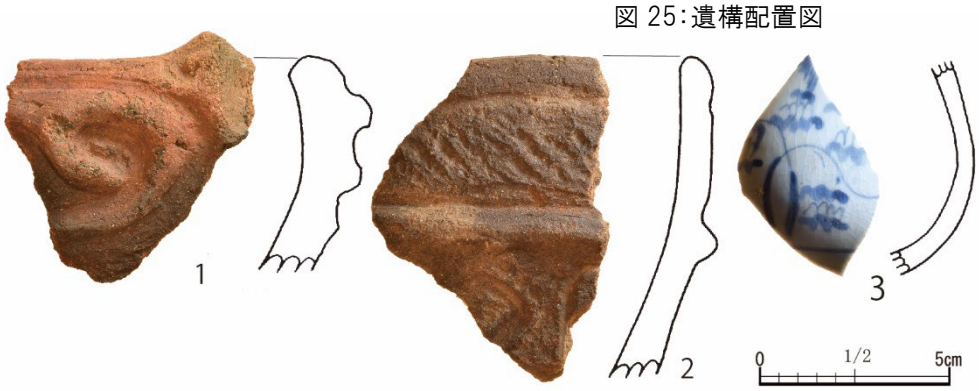


図 25:遺構配置図



No.	時代	種別１	種別２	種別３	出土地点	備考
1	縄文	土器	加曽利E	加曽利EⅡ	トレンチ9 竪穴住居跡内	キャリパー形。隆帯区画・意匠文。RL
2	縄文	土器	加曽利E	加曽利EⅠ？	トレンチ9 竪穴住居跡内	キャリパー形。隆帯区画。胴部沈線意匠文？。RL
3	近世	磁器	瓶	染付	トレンチ7 近世土坑内	

（4）今後の取り扱い

事業地東側の縄文時代の遺構が見られる範囲と中世の土坑列が伸びる範囲 900 ㎡を本調査対象範囲とした。協議の結果、事業面積の縮小と設計変更により、本調査対象面積を約 550 ㎡にまで減じて、本調査へ向けた調整を継続している。

1:トレンチ 4　土坑列掘削状況

2:トレンチ 8　土坑列検出状況

3:トレンチ 9　遺構検出状況

4:トレンチ 9 南壁サブトレ　遺物出土状況

5:トレンチ 14　近世土坑検出状況

6:トレンチ 18 南壁　縄文時代土坑

報 告 書 抄 録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさ(しないいせき)ほうこくしょ
書名	埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書
副書名	―令和4年度―
巻次	
シリーズ名	市内遺跡報告書
シリーズ番号	第35冊目
編著者名	木口裕史・山下亮介・松田光太郎・西野雅人・岸本高充
編集機関	千葉市教育委員会 千葉市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL.043-266-5433
発行年月日	2023(令和5)年3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査種別	調査期間	調査面積	調査原因
	種別/主な時代/主な遺構					主な遺物		特記事項	
へたの台貝塚(だいかいづか)	中央区仁戸名町(ちゅうおうくにとなちょう)275-7	12101	中央区-84	35°35′37″	140°9′33″	本調査	2022年2月24日～2022年3月24日	27.7㎡	個人住宅建築
	貝塚 / 縄文時代 / 貝層、竪穴住居跡1軒、土坑1基					縄文土器、貝製品、石器		汚水管の埋設箇所のみの本調査。それ以外は現状保存。	
へたの台貝塚(だいかいづか)	中央区仁戸名町(ちゅうおうくにとなちょう)275-1、同(どう)6	12101	中央区-84	35°35′36″	140°9′33″	確認調査	2022年6月8日～2022年6月14日	5.0㎡	住宅建築
	貝塚 / 縄文時代 / 貝層					縄文土器、貝製品		汚水管の埋設箇所の2㎡は確認調査で調査済み。それ以外は現状保存。	
へたの台貝塚(だいかいづか)	中央区仁戸名町(ちゅうおうくにとなちょう)275-7	12101	中央区-84	35°35′37″	140°9′33″	本調査	2022年6月16日～2022年6月29日	110.0㎡	宅地造成
	貝塚、集落跡 / 縄文時代、古墳時代 / 貝層、竪穴建物跡3軒、土坑9基、ピット4基					縄文土器、土師器、石器		遺構分布範囲が広範囲にわたるため、取り扱いについて協議継続。	
立木南遺跡(たちきみなみいせき)	若葉区加曽利町(わかばくかそりちょう)947-2、954-3、同6	12104	若葉区-127	35°36′50″	140°9′18″	確認調査	2021年10月25日～2021年12月10日	470.0㎡	宅地造成
	集落跡 / 古墳時代 / 竪穴住居跡5軒、土坑1基					土師器、須恵器		道路部分及び堆積の薄い南側は本調査実施、令和4年度刊行予定。北側は現状にて保存。	
居寒台遺跡(いさわだいいせき)	花見川区浪花町(はなみがわくなにわちょう)907-4	12102	花見川区-130	35°39′31″	140°4′2″	確認調査	2021年8月31日～2021年9月15日	85.0㎡	宅地造成・住宅建築
	集落跡 / 古墳時代 / 竪穴住居跡13軒、土坑1基					土師器、須恵器		遺構面まで深さがあったため、インフラ部分以外は現状にて保存。	
高崎台遺跡(たかさきだいいせき)	中央区星久喜町(ちゅうおうくほしくきちょう) 315の一部	12101	中央区-48	35°36′1″	140°9′13″	確認調査	2022年3月22日～2022年3月31日	115.0㎡	宅地造成
	貝塚、集落跡 / 縄文時代 / 竪穴住居跡3軒、土坑・柱穴5基、貝層					縄文土器、石器		30㎝の保護層を確保し、現状保存。	
聖天遺跡(しょうてんいせき)	若葉区多部田町(わかばくたべたちょう) 65-1の一部、同7	12104	若葉区-182	35°36′23″	140°10′54″	確認調査	2022年5月31日～2022年6月7日	44.3㎡	店舗建設
	集落跡 / 古墳時代 / 竪穴住居跡1軒					縄文土器、土師器、鉄滓		計画を変更し、盛土にて保護層を確保し、現状保存。	
柳沢遺跡(やなぎさわいせき)・玄藤遺跡(げんどういせき)	若葉区小倉町(わかばくおぐらちょう)965-1、1024-2、1023-5	12104	若葉区-126・125	35°37′35″	140°10′4″	確認調査	2022年6月28日～2022年7月28日	342.0㎡	博物館および周辺施設整備
	集落跡 / 縄文時代 / 竪穴住居跡、土坑、ピット					縄文土器、石器		令和5年度に本調査を予定。	
和唐地遺跡(わとうじいせき)・琵琶首台遺跡(びわくびだいいせき)	中央区星久喜町938、954、955、956、957、958、959、938～954地先赤道、956地先赤道	12101	中央区-47・46	35°36′5″	140°8′46″	確認調査	2022年7月14日～2022年8月15日	315.0㎡	宅地造成
	集落跡、古墳 / 古墳時代 / 竪穴住居跡3軒、円形周溝墓1基、溝状遺構2基、土坑2基、ピット22基					縄文土器、弥生土器、土師器、石器		設計変更が困難な部分に関して、令和4年12月から本調査を実施。	
地蔵作遺跡(じぞうさくいせき)	花見川区長作町(はなみがわくながさくちょう) 959-1、1265-1、同3	12102	花見川区-35	35°40′57″	140°4′26″	確認調査	2022年8月31日～2022年9月14日	164.0㎡	店舗建設
	集落跡 / 縄文時代、中世～近世 / 竪穴住居跡1軒、土坑列1基、土坑1基					縄文土器、土師器、陶器、磁器		遺構分布範囲が広範囲にわたるため、取り扱いについて協議継続。	

要 約	

埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書
－令和４年度－
発　行　日　2023（令和５）年３月24日
発　　行　千葉市教育委員会
〒260-8730 千葉市中央区千葉港１番１
電話 043-245-5962 （生涯学習部文化財課）
印　　刷　株式会社白樺写真工芸
〒263-0002 千葉市稲毛区山王町102-5
電話 043-423-1101